

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 中部中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	主体的に学ぶ生徒	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;主な方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主語になる「学び合い授業」の実施、公開授業の推進</li> <li>・読書活動の推進</li> <li>・タブレット端末の適切な活用</li> <li>・少人数授業、補充学習、家庭学習の充実</li> <li>・保幼小中連携による学びの確認</li> </ul> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に向けては、①校長の観察・助言 ②全員一回以上の授業公開 ③教育アドバイザーや特別支援Co.の訪問支援 ④ミニ研修 など、効果的にPDCAが行われている。</li> <li>・中部中学校区学びのルールを意識するとともに、全校でテーマスピーチに取り組むことで、文をまとめる力、話す力が向上した。</li> <li>・「書く力」と家庭学習の充実に向け、予定帳と自主学习ノートを統合した「DAILY STUDY」を作成、配付し取組を進めた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに主体的・対話的で深い学びの実現にむけて、研修を深める。</li> </ul>	
重点目標 2	個性が輝く生徒	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;主な方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍生徒や特別支援学級の生徒への個別支援と進路保障</li> <li>・合理的配慮と基礎的環境整備</li> <li>・認め合い、高めあう人権教育・道徳教育・国際理解教育の実践</li> <li>・さわやかな挨拶の励行と自主性を尊重した部活動の充実</li> </ul> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人生徒支援委員会と校内特別支援委員会を定例化し、機能的・組織的になった。そのことにより職員間での情報の共有が進み、みんなの共通理解のもとで支援を行うことができた。</li> <li>・道徳の教科化に伴い、各学年の指導計画の作成・データベース化を進めており、実践後更新を行っている。</li> <li>・今年度は、道徳の支援事業を受け、大学の先生等に助言をいただく機会が複数回あったため、道徳の授業の流れを一つ一つを見直すことができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「考え、議論する道徳」をめざし、道徳の授業を深めていく。</li> <li>・日本語指導が必要な生徒や支援が必要な生徒がより授業に参加しやすい環境づくりや合理的な配慮について、さらに研修を進める。</li> </ul>	
重点目標 3	生徒と向き合う教職員	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;主な方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問、教育相談、個人ノート等、対話を中心に据えた生徒理解の実施</li> <li>・豊かな教育環境の整備に努める教職員全員の協働</li> <li>・教職員の健全な心身の維持増進に向けた総勤務時間の縮減</li> </ul> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒情報について、生徒指導委員会で共有、個別に検討し、SCやSSW等と連携しながら、組織的に対応できた。</li> <li>・市の部活動ガイドラインに沿った本校の活動指導方針を策定し、短時間でより効果的な活動とするとともに、勤務時間の縮減につながることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で今年度は全家庭を訪問することはできなかった。</li> <li>・個別の課題・背景が多様で、中には不登校になった生徒がいる。教育行政、医療、福祉等関係機関との連携をさらに進め、生徒理解とその解決の手立てを模索していきたい。</li> <li>・教職員の働き方改革について、さらに意識を高めて取り組んでいく。</li> </ul>	

重点目標 4	チームCHUBU	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>&lt;主な方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会（コミュニティスクール）との協働</li> <li>・地域中心のスペシャリスト授業、職業体験、福祉学習等の体験的学習の実施</li> <li>・保護者、地域、小学生を対象とした学校見学会の充実</li> </ul> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校見学会ではコロナ禍にもかかわらず多くの保護者・地域の方に参加していただき、教育活動に対して概ね高い評価をいただいた。</li> <li>・運営協議会委員と生徒のパネルディスカッションを実施し、生徒のキャリア教育にとって大変有意義だった。</li> <li>・学校ホームページの更新頻度を高め、情報発信に努めることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でスペシャリスト授業・職業体験学習が実施できず、地域の方に公開する機会（学校見学会・体育祭など）についても制限させていただくこととなった。</li> <li>・より多くの地域協力者の参画に向けて、保護者や地域のニーズを把握したうえで、内容を充実させていく必要がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教職員全員が研修を深めることができるように具体的な研修課題を設定する。</li> <li>・「特別の教科 道徳」については、本年度の研修で確認した指導内容、評価方法などを踏襲しつつ、さらに改善をして「考え、議論する道徳」をめざす。</li> <li>・国際理解教育分野での小中の連携（中部中学校へ進学する外国人児童生徒の情報交換など）をさらに進める。</li> <li>・不登校生徒については、教職員の共通理解のもと、個別の生徒の課題や背景に応じた対応をとる。また、SCやSSWと協力し、校内ふれあい教室のさらなる充実を図り、教育行政、医療、福祉等の各機関との連携をさらに進める。</li> <li>・会議の進め方や分掌の改善、学校業務アシスタント・スクールサポートスタッフとの連携を進め、教職員の働き方改革に努める。</li> <li>・コミュニティスクールの機能をさらに高め、地域の豊富な人材を積極的に教育活動に活用していく。</li> </ul>
--

# 自己評価書

四日市市立 橋北中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

<b>重点目標 1</b>	確かな資質・能力の育成	3
主な方策 成果と課題	①反復や繰り返しによる基礎的基本的な学習の定着 ②習熟度に合わせたきめ細かい指導の工夫 ③問題解決能力の向上をめざし、主体的・対話的で深い学びによる授業づくり ④ICTを活用し、学びの個別最適化を図る ⑤働きやすい職場環境づくりと教師力の向上  <b>【成果】</b> ・WiFi環境におけるタブレットを活用した効果的な授業の進め方により、確かな学力の定着に結びついた。また「学んでE-net」や「Qubena」を使いながら習熟度に合わせた課題の提供や指導を行うことができた。 ・オンライン授業の実施により、教師や生徒のICTスキル向上に繋がった ・朝学習の時間を活用し、基礎的な学習を実施することができた。 <b>【課題】</b> ・教師が授業に使うタブレットではなく、生徒が必要に応じて文具のように使うタブレットにしていけるよう、さらにICTの実践を推進していく。 ・習熟度別授業の実施方法についてさらに議論を進め、効果的な方法を検討する必要がある。 ・これまで継続している本校独自の自主学習ノート「Let's Study」の見直しや新たな教材ソフトを活用しながら、生徒自身が自ら取り組む家庭学習について、今後さらに検討する必要がある。	

<b>重点目標 2</b>	キャリア教育の推進	4
主な方策 成果と課題	①社会的・職業的自立に向けた4つの力の向上を意識した教育活動の推進 ②成就感や自己有用感を高める教育活動の工夫 ③学びの一体化の取り組みの推進  <b>【成果】</b> ・キャリア教育に視点を当てた教育活動が効果的にはたらき、挨拶、授業規律などの規範意識、成就感や達成感など、生徒自身の高まりがみられている。全国学力・学習状況調査におけるアンケート結果でも前回（平成31年）との比較において、ほぼすべての項目で肯定的回答の割合が高くなっており、積極的に社会と関わる姿勢や学びに対する前向きな姿勢、自己肯定感の高まりが伺えた。 <b>【課題】</b> ・「自分の将来の夢や希望を持っている。」と回答する生徒の割合が目標数値の90%を上まわることができるよう、将来のモデルとなる人との出会いや自己の生き方を考える学習機会をこれまで以上に効果的に設定しなければならない。 ・子どもたちの将来の姿を思い描いた取り組みを、学びの一体化でさらに進める必要がある。	

質問事項		令和3年	平成31年
1	自分には、よいところがあると思えますか	71	68
2	将来の夢や目標を持っていますか	77	74
3	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	71	75
4	人の役に立つ人間になりたいと思えますか	69	71
5	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	84	78
6	人の役に立つ人間になりたいと思えますか	66	71
7	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えますか	100	93
8	人の役に立つ人間になりたいと思えますか	95	94
9	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えますか	71	58
10	英語で学習したことは、将来、役に立つと思えますか	44	40
11	英語で学習したことは、将来、役に立つと思えますか	100	85
12	英語で学習したことは、将来、役に立つと思えますか	89	88
13	数学で学習したことは、将来、役に立つと思えますか	88	82
14	数学で学習したことは、将来、役に立つと思えますか	75	76

重点目標3	地域とともにある学校づくりの推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①コミュニティスクールを活用した教育活動の推進 ②地域に発信し、連携して生徒を育む取組</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四日市版コミュニティスクール2年目となり中学校で開催した地域消防団と連携した防災教室を実施することができ、地域ぐるみでの防災意識を高めることができた。また、地域民生委員による自主的な除草活動により快適な運動場で体育祭を実施することができた。今後も学校と地域の協働について、多くの意見交換をしながら「地域とともにある学校づくり」を推進していきたい。</li> <li>・地域密着型の職場体験学習では、実習でお世話になるだけでなく、実習後の生徒による発表会にも、来校いただいたりオンライン等、様々なかたちでご参加いただき、貴重なご意見を頂くことができた。家庭科の発展学習として校区在住の巻き寿司づくりの講師を招き、地域の資源や人材を活用した学習を実施することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に比べ少しずつではあるが地域行事も再開されるようになってきており、これまで以上に積極的に地域の取り組みに参加しながら、地域にとって橋北中学校の生徒が必要とされるような意識の向上と人材育成に努めたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>○コミュニティスクール委員からも今年度の本校の取り組みについては評価をいただいているので、次年度も新たな学校教育ビジョンの重点目標を柱に、地域・学校・保護者が課題や成果を共有しながら、協働体制の構築を図る。</p> <p>○各教科におけるタブレット等を活用したICT教育の推進を図り、確かな学力の定着を目指す。また校内OJTの活性化を図りながら、教師の授業力向上を推進することで、個別の習熟度に対応した課題提供の在り方や指導方法の改善に繋げていく。</p> <p>○本校キャリア教育の柱である4つの力（つながる力・みつめる力・うごく、いかす力・めざす力）の向上のため、ゲストティーチャーを招いて生き方を学んだり、本物の芸術に触れたり、様々な分野の講演を聞いたりして、たくさんの人と出会う機会を持つことを継続・発展させる。</p> <p>○地域の良さを子どもたちに伝え、地域で学び、地域を愛し、やがてその子どもたちが大人になって地域に戻ってくる、といった好循環を形成できるよう、コミュニティスクールや学びの一体化を中心とした取り組みのさらなる推進をしていく。</p>
---

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 港中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	知恵を育む（知）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着 2 思考力・判断力・表現力の育成 3 特別支援教育の推進</p> <p>【成果】 ■読解力向上事業を受け、取り組みを積み重ねることができた。 ■発達に課題のある生徒に対しての支援体制について関係機関との協力の下、校内支援委員会で情報交換を密にし、効果的な支援ができた。 ■タブレットを活用することで、生徒の思考、表現の幅を広げることができた。 ■3観点を意識した評価方法の研修を進めることができた。</p> <p>【課題】 ■ICTの効果的な活用について、新しいアプリの使い方等研鑽を積む必要がある。 ■支援の必要な生徒が年々増えており、ユニバーサルデザイン化された授業がより重要になってくると感じる。</p>	
重点目標 2	心を豊かにする（徳）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 認め合い高め合う仲間づくり 2 健全な心の育成 3 読書活動の推進</p> <p>【成果】 ■体育祭における群活動では、縦割りの良さを生かし、心を育む取り組みも効果的に進められている。 ■朝の読書、教師による読み聞かせ、通信でのお薦め本、オープンスペース・校長室での書籍の紹介等、読書活動の推進をさらに深めることができた。 ■みなトークにより、相互理解が進み、仲間づくりをより進めることができた。 ■道徳の研修が進むことで、生徒の心により語り掛ける授業が実践できた。</p> <p>【課題】 ■携帯電話の使い方の指導をしながらネットモラルについての教育を重点的に進めていく必要がある。 ■教育相談や生徒と向き合う時間を確保していく必要がある。</p>	
重点目標 3	健やかな体をつくる（体）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 体験活動等を生かした安全教育の充実 2 健康管理を心がける生活習慣 3 健康でたくましく生きるための体力の向上</p> <p>【成果】 ■コロナウイルス感染症対策等は、全職員の協力のもと徹底して行うことができた。 ■体育科を中心に日々運動が好きになるように生徒を育成することができた。 ■部活動指導において、ランニング等により、体力を向上させることができた。 ■避難訓練の安全指導において、防災・減災の意識を高めることができた。</p> <p>【課題】 ■表面上はわかりにくい場所での生徒の怪我があり、安全点検をさらに徹底する必要がある。 ■一部の生徒の習慣化していない健康観察の意識を高める必要がある。 ■携帯電話の依存が強く、家庭での使い方等生活習慣を改善していく必要がある。</p>	

重点目標 4	キャリア教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 基礎的・汎用的能力を構成する4つ能力の育成(つながる・みつめる・うごくいかす・めざす)</p> <p>2 将来の夢や目標と学業を結びつける教育活動の工夫</p> <p>【成果】</p> <p>■すべての教育活動において、キャリア教育を意識して取り組むことができた。</p> <p>■各行事を4つの能力の育成の観点で目標設定することで、すべきことやつきたい力を明確にすることができた。</p> <p>■様々な職種的外部講師を活用し、生徒の能力の育成に努めることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>■コロナ禍により、削減された体験活動を各学年においてでどう補充していくか検討していく必要がある。</p> <p>■小中の指導方針について、共通認識できるようさらに改善していく必要がある。</p>	

重点目標 5	“学び舎”の礎	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 学校組織の活性化 2 自己研さんの推進(教えのプロとしての自覚) 3 学びの一体化の推進 4 保護者・地域との協働</p> <p>【成果】</p> <p>■タブレットの導入により教育方法の変化が求められる中、学校全体で協力、情報交換やOJTを行いながら授業のスキルアップを行うことができた。</p> <p>■学校業務アシスタント、スクールサポートスタッフ等、新たな職種が増えているが、活用について徐々に成果を上げることができた。</p> <p>■保護者や地域との協働も定着しており、ホームページや通信の発信もよくできた。</p> <p>【課題】</p> <p>■学びの一体化は、コロナ禍により交流が縮小され、情報交換等で終わっている。</p> <p>■保護者・地域等との交流等、コロナ後の対応を見据えて検討していく必要がある。</p>	

## 2 改善方針

- タブレット活用のために、グーグルクラスルーム等の新しいアプリへの対応を全職員で研修し、生徒に力をつけるための効果的な使い方について研修を深め、スキルアップに努める。
- 家庭での携帯電話の使用について保護者への注意喚起、啓発活動をHP、学校だより、PTAの会議等を通じて積極的に発信していく。
- コロナウイルス感染症対策等により中止、縮小等となった体験活動等を次年度においてどのように取り組むかを学年単位で検討していく。
- 健康観察表の保護者確認を徹底し、家庭の協力も得て健康観察の重要性の認識を高めていく。
- 講演会等で、子どもたちに様々な知識をインプットする機会だけでなく、学んだことをアウトプットする機会を確保できるようにしていく。
- 保護者や地域の思いの共有を図るために、積極的な情報交換を行っていく。
- 職員や専門スタッフ等との連携に努め、より効果的な活用を実現していく。
- 不登校等、生徒の心の健康課題に対して専門機関と協力して早期発見、早期対応を行う。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 塩浜中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の向上・・・知	4
主な方策 成果と課題	<p>&lt;基礎的・基本的な力の定着&gt;            ○小規模校の特性を活かし、生徒一人ひとりの個性や能力をよく見極め、きめ細やかな教育活動を行うことができた。            ○質問日や補充学習日を設定し、学習の補充に努めた。            ○タブレットを使った学習がどの教科でも定着してきている。            ●学習習慣の確保が難しい生徒がおり、定期的に学力補充をする日が必要である。</p> <p>&lt;授業の工夫・改善&gt;            ○四日市モデルの授業研究を研修の中心に置くことにより、考え、発表する授業になるよう工夫し、深い学びにつなげていくことができた。            ○どの授業においても、めあての提示と振り返りを重視し、生徒たちが1時間1時間の授業において何を学ぶか意識させるようにした。</p> <p>&lt;コミュニケーション能力の育成&gt;            ○コロナ禍で制限はあったものの、できる限り伝え合い聴き合う場を設定した。</p>	
重点目標 2	いのちを尊重する教育の創造・・・徳・体	4
主な方策 成果と課題	<p>&lt;道徳・人権教育の充実&gt;            ○各学年の道徳・人権学習の取組や様子を伺い、学年の枠を超えて共通した目標を設定することができた。</p> <p>&lt;将来を見据えたキャリア教育・豊かな人間性の醸成&gt;            ○地元の企業や事業所との連携によるキャリア教育を推し進め、職場体験学習や職業講話等を通じて、生徒たちが将来の自分の姿を思い浮かべるのに役立った。            ○朝の10分間読書はすっかり定着し、読書習慣につながっている。</p> <p>&lt;性教育、食育、健康教育の推進&gt;            ○「いのちの学習」では、性に関する正しい知識とかけがえない命を守ることの大切さを学ぶことができた。            ○食育では、他校の学校栄養士に来てもらい、学年別に健康的な毎日を過ごすために必要な食生活についての知識を習得できた。</p>	
重点目標 3	地域・家庭との連携した学校	4
主な方策 成果と課題	<p>&lt;学校自己評価・学校関係者評価の実施&gt;            ○年2回学校自己評価を実施し、それをもとに日々の教育活動や次年度の学校づくりビジョンにつなげることができた。            ●2回目の学校自己評価はタブレットで実施したが、回答率が紙媒体で実施した時より低下した。タブレットでも高い回答率になるように啓発していかなければならない。</p> <p>&lt;情報の発信・受信&gt;            ○学校だよりや学級通信、ホームページ等により情報をこまめに発信し、学校自己評価でも高い数値となっている。</p> <p>&lt;地域との連携&gt;            ○人権コンサートには、たくさんの保護者や地域住民、および校区内の小学6年生が参加した。その後書いた作文から、大多数の生徒が感銘を受けたことが読み取れた。            ○年2回全校生徒が地域の一人暮らしの高齢者に葉書きを送り、年齢に関係なく地域住民を大切にしていける心が育まれている。</p>	

重点目標 4	特別支援教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>&lt;校内支援体制の確立&gt;  ○特別支援教育推進委員会を定例化し、支援体制を充実し、生徒の情報交換に努めている。委員会の内容は非常勤講師も含め、全職員で共有している。  ○支援ファイルの活用と充実を図っている。  ○特別支援学級の担任だけでなく、教員全体で特別支援学級の生徒と関わりを持ち、手厚い指導ができています。  ○スクールカウンセラーが来校した時には、専門的な立場から助言をもらい、大変参考になっている。  &lt;個に応じた教育の実践&gt;  ○ほとんどの授業において、チームティーチング、または支援を行っている。  ○数学では習熟度に分けて授業を行っている。そのため、生徒一人ひとりのニーズに合わせることができ、理解度が把握しやすい。</p>	

重点目標 5	教師力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;校内研修の充実&gt;  ○四日市モデルへの意識が教員間に浸透している。  ○ICTサポーターによる研修会等のおかげで、教員のICTに関する指導技術が向上し、オンライン授業も滞りなく行うことができた。  ○全教員による授業公開を行っている。  ●数学と英語以外は同一教科が一人の教員のみで、同一教科間の話し合いができず、校内で意見交流をしたり、悩みを共有したりできない。  &lt;保こ小中の連携&gt;  ○文化祭には校区内の小学5・6年生が参加し、合唱を披露してくれた。また、本校生徒による合唱（学年別）を見学した。  ●コロナ禍のため小学校との合同の研修会等が中止になり、交流を制限せざるを得ない状況である。コロナ禍でも充実した「学びの一体化」になるよう検討していかなければならない。</p>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校づくりビジョンのさらなる浸透を図るために、具体的方策を常に意識した学習活動や学校行事の立案に努める。</li> <li>・各校務分掌の年間計画や行事計画に学校づくりビジョンとの関連を明記していく。</li> <li>・学習習慣の定着をめざし、部活休養日を補充学習日として活用する。</li> <li>・全国学力・学習状況調査やみえスタディチェック等の結果を全教員で分析し、学力の定着を図っていく。</li> <li>・今後も地元の企業や事業所との連携を強化し、より充実したキャリア教育を推し進める。</li> <li>・道徳の授業においては、教科書の活用の他にも、教科書以外の徳目に関する教材の発掘および開発ができるようにしていく。</li> <li>・研究協議会等の場を活用し、さらに「わかる授業・楽しい授業」になるように教材研究を積み重ねていく。</li> <li>・学校自己評価の結果を多方面から分析し、保護者や地域にとって信頼される学校になるように、「チーム塩浜」の一員として全職員一丸となって取り組んでいく。</li> <li>・コロナ禍で制限はあるものの、「学びの一体化」を通じて、異校種の連携を図り互いの実態把握に努めるようにする。</li> </ul>
--



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 山手中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学力の向上と指導の充実（知）	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・オンライン授業等の指導が行われる中、限られた授業時数の中で生徒たちの学力を育成するための取り組みが適切に行うことができました。</li><li>・小集団の活用などについては、感染拡大防止の為、進めることが難しい面もあり、その方法については今後の課題であると言えます。ICTを活用した小集団学習などの推進が、方策の一つとして考えられます。</li></ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習についての項目を見ると保護者・生徒・CSの方からは、例年並みの評価を頂いていますが、教職員からは新学習指導要領に対応した評価について研修を深め、指導と評価をしっかりと結び付けていかなければならないとする意見やICTの有効活用に関する反省が多く出ており、来年度に向けての課題が見えてきています。</li></ul>	
重点目標 2	心の教育の推進（徳）	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・多くの生徒が、学校での生活に充実感を感じており、生徒たちからの評価は3.5の数値を示しています。「ふれあいを大事にすること」「人権教育を含めた道徳教育の充実を進めること」「Q-Uや教育相談等で生徒の悩みや気になっていることを探り、生徒の内面に迫る生徒指導になるよう教職員同士の情報交換や研鑽を続けていくこと」等、これらの取り組みにより、落ち着いた学習・生活環境を築くことができています。</li></ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今年度も感染症対策により例年のような活動ができませんでした。また、感染を心配しての欠席も見られ、生徒たちが安心して生活できるよう、環境・心の両面において支援が必要であると考えられます。</li><li>・カウンセリングの希望者が増えてきており、適切な時期にカウンセリングを受けられることができるよう、見通しをもって支援を行っていくことが必要です。</li></ul>	
重点目標 3	健康・安全教育の徹底（体）	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・毎日の健康観察の徹底、設置されたエアコンの活用、換気・手洗いの励行等、高い意識をもって健康管理に努めることができました。また、基礎的な生活習慣の確立（時間を守る・清掃にとりくむ）、家庭科の授業（栄養教諭と連携した食育等）、体力テストの結果に基づいた保健体育科の指導は、感染拡大を防止する観点から見ても、有効であったと考えられます。</li></ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「学校施設・設備の環境整備、有効活用」の評価は、校舎が建てられてから年数がたち老朽化が著しいためか、保護者・生徒・教師・CSとも施設面に関して、厳しい意見を多くいただいています。市に修繕・設備要望をしています。整備や修繕に日々対応しているのが現実です。</li></ul>	

重点目標 4	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者による参観や地域の方を招いての連携学習が中止される中、ホームページによる情報発信の充実や録画による文化祭合唱の上映を行うことができました。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大を防止する為とはいえ、生徒たちの姿を知りたいという保護者からの声は、昨年度以上に多くそして強いものとなりました。時期によっては、感染の拡大状況が大きく改善する時もありましたが、3学期現在の県内・市内の状況は予断を許さないものがあり、本校においてもそれは同様です。現在の学校が置かれている状況を丁寧に説明しながら、保護者・地域の理解を得、生徒の健康と安全を第一に学校と地域・保護者が協力し合える関係の強化を今後も進めていく必要があると考えています。</li> </ul>	

重点目標 5	教師の専門性と資質の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○主な方策と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業や授業づくりの研修を深めることで、日常的に四日市モデルを意識した授業づくりに取り組み、指導主事の指導等を受けながら授業の充実を図ることができました。</li> <li>・「授業公開週間」を設け、教職員が授業を見あい、互いにアドバイスを言い合う研修スタイルができました。</li> <li>・オンライン学習では、全ての教職員がICTの活用を通して授業を展開することができました。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々進化する機器や教育理論に対応できるよう、今後も研修の充実に努めます。</li> <li>・「勤務時間の縮減」を意識しながら、質を保ちつつ、会議の精選と充実を各自・各分掌で行う必要があります。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校づくりビジョンに示す目標が達成できるよう、それぞれの教育活動への取組内容の充実や精選、向上を図ります。</li> <li>①組織として円滑に機能するよう情報共有を密に行います。</li> <li>②校内研修の更なる充実と新学習指導要領の実践、特に指導と評価の一体化を進めます。</li> <li>③ICTの利用に関する研修を進め、社会の変化に対応しうる教育活動を進めます。</li> <li>④人権学習を含めた道徳教育の充実を図り、一人ひとりの心に寄り添う教育を進める。</li> <li>⑤新型コロナウイルス感染拡大防止対策等を含む危機管理意識の向上と保護者との連携を図ります。</li> <li>⑥勤務時間縮減に向けた行事の精選と仕事内容の見直しを図ります。</li> </ul> <p>そのために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員同士のコミュニケーションの深まりや相談・報告・連絡を密にし効果的な指導を行います。</li> <li>・勤務内容や仕事内容など勤務時間のあり方についてしっかりと考え行動に移す必要があります。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 富洲原中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	学びの協働体づくり、学び合う授業づくり 聴き合い、学び合うかかわりを大切に、ひとり一人の生徒が意欲的に取り組み、響き合える授業を作ります。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 研修会を充実させ教師の授業力の向上を図ります。</li><li>(2) 中学校区「学びの一体化」の取組の充実を図ります。</li><li>(3) 体力の向上に努めます。</li><li>(4) 習熟度別学習、少人数、ITを充実させ生徒の学習意欲とともに学力の向上を図ります。</li></ol> <p>【成果と課題】</p> <p>○新学習指導要領の指導と評価の一体化にむけて、昨年度行った研修を4月当初に全職員で確認をし、各教科でルーブリックを作成し、パフォーマンス課題に取り組んだ。また見方・考え方で思考を深めるための授業づくりや校内研修を行い、外部講師からも助言をいただき、研修を深めていった。その結果、生徒は授業に対して、主体的に取り組めるようになってきている。</p> <p>○タブレット端末の活用を推進するため、実践している教員やICTサポーターを活用しながら、授業への活用を進めていった。コロナ禍においてグループ活動やペアワーク活動の機会が減少したが、意見交換等をICTを活用することによって、交流機会を確保している。</p> <p>○学びの一体化の大きな柱である「朝のベーシック学習」の活動において、基本的な知識の土台づくりを継続して行っているが、指導要領の改訂に伴い、発展的な力を身につける活動も考えていく時期にきている。本年度は読解力の向上をねらい、新聞を活用した取組をスタートさせた。次年度も継続して行っていきたい。</p> <p>○TTの授業を行うことで、生徒の困り感の把握や習熟度別に課題の取り組むことができた。</p>	
重点目標2	仲間づくり、ケアリング 生徒と生徒、生徒と教師、教師と保護者が互いに聴き合い。気持ちを理解できる柔らかな人間関係を育みます。	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 全職員による教育相談、特別支援教育の充実を図ります。</li><li>(2) 温かみのある生徒指導に取り組み、問題行動の予防を図ります</li><li>(3) 自分を大切に、命を尊重する人権教育や道徳教育、体験活動の充実を図ります。</li><li>(4) 生徒会活動を通して気持ちを理解し合える人間関係を育みます。</li></ol> <p>【成果と課題】</p> <p>○毎朝、生徒昇降口や教室で生徒を向かい入れ、あいさつや体調管理の声掛け等を行った。また生徒会を中心に月一回のあいさつ運動も実施しており、教師だけでなく生徒も一緒になって活動を行っている。</p> <p>○学期に一度の教育相談アンケートだけでなく、長期休業明けにも生活アンケートを実施している。そうすることで、生徒の様子の変化をいち早く確認している。また、生徒情報を「ほっと情報」として共有し、全職員でアプローチできるようにしている。</p> <p>○人権講演会やクリーン作戦・炊き出し訓練といった行事を、地域の人や小中合同で行うことで、自分だけでなく、地域を大切にすることを育てている。</p>	

重点目標 3	<b>地域とともにある学校</b> 学校内外で地域とともにある教育活動に取り組み、生徒・保護者・地域・学校の相互理解を図ります。	3
主な方策 成果と課題	<b>主な方策</b> (1) 学校の教育活動をいつでもだれにでも公開します。 (2) 地域（人材・歴史・文化・産業）を学習の舞台として活用します。 (3) 生徒会活動の活性化を図り、自主活動体験活動を支援し充実させます。 (4) 学校や生徒の活動が見える学校環境の整備に努めます。 (5) 部活動を通して、人間形成を図ります。 (6) 定時退校日の設定、総勤務時間縮減に向けた取り組みを家庭・地域の理解のもとに進めます。  <b>成果と課題</b> ・昨年度に引き続きコロナ禍の中、ほとんどの地区行事が中止となったが、地域とともに行う行事（人権講演会や炊き出し訓練）においては密を避け、地域の代表の方に参加していただき、行事を進めるたことで、活動をともにすることができた。また体育祭や文化祭などは、感染対策をしたうえで、保護者の観覧機会を保障した。 ○日々活動においては、ほぼ毎日ホームページを更新し、日常の学習活動などの様子を発信した。ことで、「学校の様子を伝えていきますか」の学校評価でも保護者のよい評価を得ることができており、継続して発信していきたい。 ○クリーン大作戦では小学校、幼稚園、保育園、地区市民センター、児童館に出向き清掃活動を行うことができた。また、外活動のみと限定はされていたが保育実習も行うことができ、地域の中で活動する姿を見せていき、関わりを絶やさない活動を続けていきたい。 ・次年度もコロナ禍の中でできること、できないことを精査しながらも、できるだけ地域貢献できる場面を増やしていただきたい。また地域の方へ学校に来ていただく機会を作っていきたい。	

## 2 改善方針

### 重点目標 1 「学びの協働体づくり、学び合う授業づくり」

- ・研修会に限らず日ごろからお互いの授業で研鑽し、教科間で連携を取りながら、「指導と評価の一体化」を重点とした授業づくりを進めていく。
- ・タブレット等、ICTを活用したペアワークやグループワークを積極的に活用し、生徒が主体的に学ぶことができる授業づくりを考えていく。
- ・「マイブック」や「ブックトーク」など読書活動の取組を継続する。また、新聞記事を活用した取組をも引き続き行うことで、読解力の向上を図る。

### 重点目標 2 「仲間づくり、ケアリング」

- ・教師と生徒が関わる時間を大切にし、見守りや声かけなど、生徒に寄り添う体制を整え、安心安全に過ごせる学校づくりをしていく。
- ・生徒の情報を「ほっと情報」にて共有し、問題行動等を早期発見し、一つのチームとして対応していく。また不登校対応など、一人ひとりの目標に合わせた支援を考え、各関係機関との連携を図る。

### 重点目標 3 「地域とともにある学校づくり」

- ・地域の中で活躍できる人材となるように、地域行事等にも積極的に参加を促し、地域の人々とともに、子どもたちの成長を促していく。
- ・生徒会を主体とした取り組みの活性化を図り、地域へ活動の姿をホームページ等も活用して発信していく。

## 自己評価書

四日市市立 富田中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	授業を大切にしている学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>授業を中心とした「確かに生きる力」の基盤となる「力」の育成</p> <p>(1) 【確かな学力】</p> <p>①授業公開を軸とした「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業づくり</p> <p>②「全国学力・学習状況調査」「NRT」等の結果分析に基づいた授業改善、基礎・基本の定着</p> <p>③学習習慣の定着を意図した授業等における指導の工夫、家庭との連携</p> <p>＜学校自己評価アンケート（肯定的な回答）の結果＞</p> <p>①「授業では楽しく学べ、自分を高めることができますか。」（生徒：85%）</p> <p>②「授業では『考える・話す・表現する』ことに意欲的に取り組み、学んでいますか」（生徒83%）</p> <p>③「家庭での学習に自主的かつ日常的に取り組んでいますか。」（生徒74%）</p> <p>「お父さんは、家庭での学習に自主的かつ日常的に取り組んでいますか。（保護者58%）</p> <p>＜成果と課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題解決能力の育成を旨とした実践的・効果的な授業づくり」を研修主題とし、「深い学びに向かって、主体的・対話的な学習時間を確保する」ことを重点に授業改善に努めた。また、校内研修では学校全体で授業公開を軸とした「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業づくりをテーマに取り組み、教育目標に迫る授業づくりに着手した。今年度はさらにICT機器を活用した授業づくりにも積極的に取り組んだ。</li> <li>・「NRT」の結果は、継続してどの学年とも高い結果となった。富田浜通信として保護者にも明示し、情報を共有した。</li> <li>・学習習慣については、各家庭と連携しながら進めていく必要を強く感じる。</li> </ul> <p>(2) 【豊かな人間性】</p> <p>①「育みたい力」を明確にした体験活動を組み込んだ授業や学校行事の実施</p> <p>②社会や他者との関わりについての意識、規範意識の向上を意図した教育活動の実施</p> <p>③自分の将来を見据え、社会へ参画し貢献するためのキャリア教育の推進</p> <p>＜学校自己評価アンケート（肯定的な回答）の結果＞</p> <p>①「授業や学校行事を通して、有意義な体験や学びがありましたか。」（生徒：91%）</p> <p>②「毎日の生活の中で、心を込めてあいさつできていますか。」（生徒：89%）</p> <p>③「自分の将来や地域や社会とのつながりについて考えることがありますか。」（生徒：74%）</p> <p>＜成果と課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に続きコロナ禍においても有意義な体験や学びがあったことは、できないではなく、できることを工夫しながら子どもたちに寄り添いながら取り組んだ成果だと考える。</li> <li>・毎日のあいさつは、富田中学校の強みでもある。生活委員会が主体となるあいさつ運動なども本校の伝統となりつつある。</li> <li>・地域とつながる行事が昨年度に続き中止となる中でも、本校が大切にしている2年生の「富田再発見」の取り組みをタブレットを活用し、新しくチャレンジした内容として「中学生と語る富田の未来」を実施予定。4名の働くプロに学ぶと題した「職業講話」を実施。キャリア教育の視点を大切に今後につながるものとなった。</li> </ul>	

<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(3) 【健康な身体・体力】 ※学校保健委員会</p> <p>①「安全な生活」「食育」「生活リズム」「望ましい生活習慣」等の啓発</p> <p>②保健体育の授業や学校行事における、運動意欲の向上、体力の増進</p> <p>&lt;学校自己評価アンケート(肯定的な回答)&gt;</p> <p>①「望ましい食事や適切な睡眠を意識して生活できていますか。」(生徒:80%)</p> <p>②「体力を高めることを意識して生活できていますか。」(生徒:86%)</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <p>・コロナ禍で1回の実施となった学校保健委員会では、学校三師を招聘し「生徒の生活習慣」や「コロナ禍における感染症対策」、「健康と体力」についての課題等について助言をいただき、保健だより・学校だよりやHP、そして今年度から「体育科通信」として体力テストの結果及び考察等をまとめ生徒のみではなく、保護者や地域にも情報発信として啓発ができた。</p> <p>・昨年度までの課題である、体力づくりと体を温めてケガを予防するという観点から、体育授業及び部活動でのケガの予防への教員の意識が高まった。さらに体力向上についての情報を発信していきたい。</p>
--------------------------	---

<p>重点目標2</p>	<p>一人ひとりを大切にする学校</p>	<p>4</p>
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>すべての人が、心も身体も安心・安全に過ごせる学校の実現</p> <p>①自分も他者も大切に、認め合い高め合える、すべての教育活動における人権教育の実践</p> <p>②特別支援教育の理念を大切に、個に応じた生徒指導の実践</p> <p>③生徒も教職員も、安全に過ごせる環境(施設)の整備、実効性のある防災体制の整備</p> <p>&lt;学校自己評価アンケート(肯定的な回答)の結果&gt;</p> <p>①「学校は安心して過ごすことができる場所になっていますか。」(生徒:83%)</p> <p>②「どんな理由があっても、いじめはいけないことだと思っていますか。」(生徒:93%)</p> <p>③「まわりの人の気持ちを考えて生活できていますか。」(生徒:94%)</p> <p>④「先生たちは、授業などで生徒が困らないように指導や支援を工夫していると思いますか。」(生徒:91%)</p> <p>⑤「授業などで生徒が困らないように、指導や支援を工夫しましたか。」(教師:97%)</p> <p>⑥「安全に気をつけて生活できていますか。」(生徒:92%)</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <p>・「教育相談」、「Q-U調査」に関する校内研修会を行い、活用方法を理解するだけでなく生徒一人一人を把握し、よりよい学級づくりにいかすための取り組みとなった。また、人権学習や道徳授業において自分の思いを言葉で伝えられ、その思いを受けとめることができる人権尊重の風土を大切にしたい。今後もすべての生徒が肯定的な回答になるようにしていく取り組みが必要がある。</p> <p>・毎学期に教師の「UDチェック」を継続し、指導や支援を見直しながら取り組むことができた。生徒の回答と教師の回答にやや差があり、教師の認識を改める必要がある。</p> <p>・津波を想定した四日市北警察署まで避難する訓練を行ったりすることで、生徒の安全意識を高め、有事の際の具体的な動きを想定させることができた。2年生で取り組んでいる「防災学習」は本校の伝統行事になっている。</p>	

重点目標 3	保護者や地域と協働し高め合う学校	3
主な方策 成果と課題	<p>地域や社会に開かれた教育課程・学校の実現</p> <p>①授業公開、学校だより、学年通信、ホームページ等による、教育活動の積極的な発信</p> <p>②地域等の教育資源を活用した授業の実施、地域活動への参画</p> <p>&lt;学校自己評価アンケート（肯定的な回答）の結果&gt;</p> <p>①「学校からの通信を読んだりホームページを見たりしていますか。」（生徒：64%） 「お家の方は、学校からの通信を読んだりホームページを見たりしていますか。」（保護者：86%） 「通信やホームページを積極的に発信しましたか。」（教師：51%）</p> <p>②「地域の人や保護者と協働した学習や活動に取り組むことができましたか。」（生徒：68%）</p> <p>&lt;成果と課題&gt;・HP閲覧数は、208,236(3/1現在)であり、昨年度1年間での159,972を大きく上回っている。この背景には「学校だより」を継続してHPにアップしたり、文化祭の合唱だけではなく、進路説明会や新入生保護者説明会を「ホームページ動画配信&lt;tomitube&gt;」をアップするなどの昨年度からにさらに踏み込んでより良いものを継続できたことは大きな成果であると思う。</p> <p>・HPの閲覧からも、コロナ禍において今まで以上に保護者や地域のみなさんが学校に対しての期待と関心を寄せていただいているのがわかる。課題としては、HPだけではなく、クラス通信なども含め、すべての教職員が教育活動の発信力を高める必要がある。そして、コロナ禍であることをふまえた積極的で効果的な情報発信を行うことを継続して行きたい。</p> <p>・昨年度に続き多くの地域行事が中止となる中、富田地区の強みでもある「地域力」を最大限にいかし、CS運営協議会が核となって地域―家庭―学校が一緒になって「地域全体で子どもたちを育てよう」という気運を高めて行きたい。コロナ禍だからこそできる「開かれた学校づくり」を学校づくりビジョンを具現化しながら取り組んでいきたい。</p>	

## 2 改善方針

「学校づくり三つの決意」〈令和4年度の具体的な取組内容〉の 1 授業を大切に作る学校 を再編。

### (1) 【確かな学力】

今年度の取り組みを経て、特に重点を置きたい内容として「ICT機器を効果的に活用した教育活動の充実」を加える。また、「四日市市新教育プログラム」の6つの柱を踏まえ、系統的に組み立てた授業づくりを追加する。

### (2) 【こころとからだの健全な育成】

「健全な生活習慣」の定着を次年度の重点として追加する。また、多様な人権を尊重し、差別やいじめを許さない風土を育む「人権学習」の実施について追加し、指導の充実を図る。そして、「朝の読書」の充実。各教科での図書室の活用、家庭との連携等による読書活動の充実を図る。また、本校の課題でもある「体力の向上」です、保健体育の授業や学校行事において運動意欲の向上、体力の増進、及び「食育」指導の充実を図る。また、学校三師と連携した「学校保健委員会」における健康状況や生活実態の把握と分析、及び専門家による指導・助言を活用し、教育活動につなげる。

### (3) 【よりよい未来社会を創造する力の育成】

自分の将来を見据え、社会へ参画し貢献するためのキャリア教育の推進を図る。また、「育みたい力」を明確にした体験活動を組み込んだ授業や学校行事の実施。地域の資源を生かした学校行事の実施

※以上の変更等に伴い、進捗状況管理校内セクションも一部変更

四日市市新教育プログラム 6つの柱

- 1 読む・話す・伝えるプログラム
- 2 論理的な思考で道筋くっきりプログラム
- 3 英語でコミュニケーションIN四日市！プログラム
- 4 運動大好き！走・跳・投UPプログラム
- 5 夢と志！よっかいち・輝く自分づくりプログラム
- 6 四日市ならではの地域資源活用プログラム

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 笹川中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	基本的な生活習慣の確立	4
主な方策 成果と課題	<p>①自治活動による主体的行動 ②コミュニケーション力の育成 ③ルールはみんなのため、安心・安全な笹中を ④社会性を身につける</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「笹ルール」の提示と徹底により学習規律は定着してきた。また、交通安全指導も生徒会やPTAを中心として取り組んでおり、地域住民との交流の場にもなっている。</li><li>・健康集会を開催し、自主制定した「ささネットルール」を確認することで、生徒に充足感を持たせることができた。</li></ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒・保護者との心のつながりをさらに強化し、暖かみを持った生徒指導を心がけていくことが必要である。</li><li>・地域からは、生徒の態度等への批判は少ない反面、応援の言葉がけも限られている。校外活動を通して、地域への働きかけを更に進めることを考えていく必要がある。</li><li>・本校の課題である不登校生徒への対応については、基本的な生活習慣の確立および学びの場の提供をきめ細やかに対応していく必要がある。</li></ul>	
重点目標 2	確かな学力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>①学力向上は学習改善から ②学力補充 ③学びの一体化の推進 ④学力定着につなげる家庭学習</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒用タブレットPCの利用が進み、すべての教科でICT機器を活用した授業を行うことができた。</li><li>・毎日のベーシック学習の効果が現れてきており、基礎学力の定着のための取り組みが着々と定着してきている。</li><li>・「みとおす」→「つながる」→「ふりかえる」を四日市モデルとリンクさせることで、指導の幅を広げることに結び付いた。</li></ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒用タブレットPCを中心としたICTの活用場面と活用の仕方をさらに研究していくことが必要である。</li><li>・家庭学習の定着を図り、個々の学力向上を図っていく必要がある。</li><li>・全国学力調査やみえスタディの結果分析による授業方法や指導方法の改善を進める。</li></ul>	
重点目標 3	心を育てる教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>①心や命を大切にす教育 ②生き方につながるキャリア教育 ③登校支援の充実 ④心身の健康と体力づくり</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教育相談を年間を通して行ったり、QU調査等の結果を検討・活用したりして、計画的に生徒理解の取り組みを進めている。</li><li>・キャリア教育としてマナーやコミュニケーションに関する講演を行ったり、LGBT、性の多様性に関する講演を行った。また、多文化共生学習として地域で活動する外国人の方をゲストティーチャーとして招いたりして、様々な立場の方からお話を聞く場を設けることができた。</li><li>・訪問交流が難しい状況の中、今年も西日野にじ学園との交流をICTを使ったりリモートによって行うことができた。</li></ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・道徳教育、人権教育については、教科化された道徳教育を定着させるため、授業研究等の研修を更に進めることが必要である。</li><li>・校内通級による不登校生徒への支援は成果を上げているが、更なる充実が必要である。</li></ul>	



重点目標 4	学校・家庭・地域で育てる教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>①開かれた学校づくりの推進 ②保護者・地域との連携強化 ③防災・安全教育の充実 (成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた機会ではあったが、学校公開週間、学年懇談会等を通して多くの保護者に来校してもらえた。保護者に限らず、地域住民の関心を集め、開かれた学校づくりには大きな効果が得られた。</li> <li>・学校だより・学校ホームページ・学級通信等によって、その都度リアルタイムな情報を発信することができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校づくりのための教職員の意識の変革がさらに必要である。学年・学級間、及び教科間の教師の相互補完にとどまらず、様々な機会をとらえて、保護者や地域の人々の声に耳を傾け、学校にかかわる人々の心情を理解していくことが必要である。</li> <li>・コミュニティスクールやPTA活動等、地域との関わりにおいては提供されるばかりではなく、学校も職員も、さらには生徒も資源の一つとして、地域に貢献していく意識を持たなければならない。</li> </ul>	

重点目標 5	生徒と共に学ぶ教員・教師の意識改革	3
主な方策 成果と課題	<p>①生徒の学習意欲を喚起する授業の創造授業 ②やる気につながる評価 ③生徒一人ひとりを大切に指導 (成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人公開授業や道徳フリー公開、全体公開授業等、様々な方法で個々の授業力の向上と学校全体の意識の向上を図ることができた。</li> <li>・昨年度に比べ、総勤務時間が減少した職員が増えた。少しずつではあるものの勤務時間について考える職員が増えてきている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等を通じた今日的な教育課題に対応できる人材の計画的な育成と、職場の年齢構成を踏まえたベテラン教職員の持つ教育指導に関するノウハウの継承等が急務である。</li> <li>・教職員のモラルやコンプライアンスに対する意識の向上と行動の徹底を進める必要がある。</li> <li>・勤務時間の縮減と職員の意識改革は今後も課題である。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的な学びに自ら取り組める生徒を育てるために、仲間づくりや互いを尊重する心の教育の充実を図る。そのために、各教科の指導方法や道徳の授業の在り方等について、これまで以上に研修を進めていく必要がある。</li> <li>・次期学校づくりビジョンには本校の課題を十分に反映させるとともに、職員へのビジョンの浸透をこれまで以上に図る。職員それぞれが学校経営に参画しているといった意識を持った上で、次年度のビジョンの実現を進めていきたい。</li> <li>・「学びの一体化」における取り組み内容を見直すとともに、校区内の連携をさらに深めながら、中学校区の教職員全員が責任をもって校区内のすべての児童生徒への指導に当たるということを再確認する。</li> <li>・特別支援教育の更なる充実と、合理的配慮を必要とする生徒の一人ひとりの発達段階に応じたきめ細かい教育活動の充実を図る。また、不登校生徒支援も含めて、関係諸機関やSC、SSWとの連携を密にして生徒の教育活動に当たる。</li> <li>・キャリア教育の充実を図り、生徒の自己肯定感・有用感、自尊感情の高揚、生徒と教師の共感性を大切にし、自己実現を目指す取り組みを図る。</li> <li>・学校ホームページ等による発信をはじめ、保護者、地域との連携を強化し、勤務時間、コンプライアンス、授業改善等、教職員の意識改革を同時に行いながら、更なる開かれた学校づくりに努めたい。</li> </ul>
---

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 南中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	I 学力の定着と充実	3
主な方策 成果と課題	<p>* 確かな学力の定着と読書活動の充実      * 積極的な授業改善</p> <p>○ ICT研修やタブレット活用を積極的に取り入れ、授業改善に取り組むことができた。効果的なICTの使い方についてさらに研修を深める。</p> <p>○ 南スタの時間（帰り学活前の10分間の授業内容の振り返りの時間）や朝読の時間が家庭学習の習慣化に良い影響を与えているが、更に充実させていく必要がある。</p> <p>○ メディアセンター（図書室）の取組が生徒の読書活動に良い影響を与えている。</p> <p>● 主眼的に考えたことや自分のおもいなどを書く活動を深めていきたい。</p> <p>● コロナ禍でメディアセンターの利用時間が少なめだったので開館時間を増やしたい。</p> <p>【生徒アンケート】先生は授業をていねいに分かりやすく教えてくれ、楽しく授業を受けている。➡3. 3</p> <p>【生徒アンケート】授業で学習したことは、将来の役に立つと思う。➡3. 3</p> <p>【生徒アンケート】朝の読書やメディアセンターを活用して、充実した読書活動を送っている。➡2. 9</p> <p>【保護者アンケート】朝の読書やメディアセンターの取組は、子どもたちの豊かな心を育むことに役立っている。➡3. 3</p>	
重点目標 2	II 心を豊かにする体験活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>* 心を育む教育の充実      * 豊かな人間性の育成</p> <p>○ 体育祭や文化祭の行事を通じて、仲間と協力することや集団の一員としての役割を考えさせることができた。</p> <p>○ 人権教育を計画的に進めることができ、生徒の心の成長につながられた。</p> <p>○ 部活動に熱心に取り組む生徒が多く、活動を通して様々な学びにつながっている。</p> <p>● 自然教室や職場体験などの行事が中止や縮小となったが、制限の中でできることを工夫していく必要がある。</p> <p>● 生徒に自信を持たせ、自尊感情を高めていく取組や声掛けを継続的に行っていく。</p> <p>【生徒アンケート】命の大切さや人権を大切にし、差別をなくすための学習が実施されている。➡3. 6</p> <p>【生徒アンケート】部活動に積極的に意欲的に参加し、目標を持って活動している。➡3. 5</p> <p>【生徒アンケート】あなたは、自分によいところがあると思う。➡2. 9</p> <p>【保護者アンケート】学校は、豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切に育てるようになっている。➡3. 3</p>	
重点目標 3	III 健康・安全教育の徹底	3
主な方策 成果と課題	<p>* 相互理解を重視した生徒指導の充実      * 安全安心な学校環境づくり      * 基本的な生活習慣の確立</p> <p>○ 生徒に丁寧寄り添い、教育相談の充実を図った。</p> <p>○ 家庭環境や成育歴を理解し、個に応じた指導や支援を行った。</p> <p>○ 校内登校サポート教室への通級の取り組みから、不登校生徒の支援を組織的に行うことができた。</p> <p>● 交通ルールや交通マナーの指導を粘り強く行う必要があるのと同時に地域協力者やPTAと連携していく。</p> <p>● SNSの指導を繰り返し行うとともに、保護者にも啓発していく必要がある。</p> <p>● 不登校生徒の数が増加傾向にある。</p> <p>● 新型コロナウイルス感染症防止の対策の徹底</p> <p>【生徒アンケート】先生は、いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれる。➡3. 5</p> <p>【生徒アンケート】先生は、生徒のふれあいを大切に、親身になって接してくれる。➡3. 4</p> <p>【保護者アンケート】学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。➡3. 3</p>	

重点目標 4	IV 学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>*教職員の資質向上と働き方改革</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校業務アシスタント・スクールサポートスタッフ等の活用により、教員の時間外勤務時間が減少した。</li> <li>○学習指導員・教育相談人員の導入により学習支援やふれあい指導などで生徒一人一人に対してより丁寧に対応できた。</li> <li>○教育委員会・SC・SSW・医療機関・児童相談所・警察・主任児童委員などの関係機関と連携することで生徒や保護者に関する問題に対して情報を共有して支援を行った。</li> <li>○ICT担当や研修委員会が中心となり、タブレットPCを使った授業研究会や授業参観習慣など、授業改善のための取組が日常的に行われている。</li> <li>●部活動休養日を設定し、時間外勤務の縮減につながったが、業務改善によるさらなる時間外勤務時間の縮減が必要。</li> <li>●コロナウイルスの影響により、研修の機会が失われている。</li> </ul> <p>【保護者アンケート】学校は、子どもたちにわかりやすい授業をするための工夫（ICT、少人数授業、グループ活動、実験や観察等）をしている。⇒3. 2</p> <p>【教員アンケート】教職員としての資質向上できるよう、積極的に研修に取り組んでいる。⇒3. 5</p>	
重点目標 5	V 家庭・地域社会との連携と協働	3
主な方策 成果と課題	<p>*開かれた学校づくりの推進                                       *保護者・地域との連携の強化</p> <p>*タイムリーな情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍による制限の中でも、できる範囲で地域や保護者に学校を開き、連携や協働を図った。またPTAの協力のもとy o u t u b eでの体育祭・文化祭のオンライン発信ができた。</li> <li>○担任・学年教師・部活顧問を中心に保護者との連絡を密に行った。</li> <li>○本年度よりCSがスタートして地域から学校教育活動への参画の協力を確認できた。</li> <li>○図書ボランティアや部活動地域協力者の方などが学校教育活動へ積極的に参加された。</li> <li>●学校HPのさらなる充実。</li> </ul> <p>【保護者アンケート】学校は、保護者の相談・思いや願いに対し、適切で誠実に対応し、学校の様子を保護者に「学校通信」等でよく伝えている。⇒3. 3</p> <p>【保護者アンケート】フリー参観や行事を通し、学校を開き、保護者等の人たちが学校へ来やすくしている。⇒本年度アンケートを取りませんでした。</p>	

## 2 改善方針

- 学力向上に向けた研修の推進。ICT・タブレットを活用した授業づくり。教科部会の定期的開催。
- 生徒に自信を持たせ、自尊感情を高める教育活動と生徒同士が問題解決に協働して取り組む教育活動の推進。
- 不登校生徒・保護者への対応。個に応じた支援。合理的配慮。
- 道徳・人権教育のさらなる推進。
- 特別支援教育の推進。合理的配慮。
- 生徒指導の充実。生徒に寄り添った指導。教育相談の充実。保護者との連携。関連機関との連携。
- 働き方改革の推進。教員の意識改革と業務改善。
- 地域とともにある学校づくり。情報発信と学校公開。CSによる地域から学校教育活動への参画。

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 西陵中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<p>確かな学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得をはかります</li> <li>★言語活動の充実と学び合いによる授業づくりをすすめます</li> <li>★問題解決能力向上のための授業づくりに取り組みます</li> <li>★論理的・科学的に思考し活用する力の育成をはかります</li> </ul>	4
主な方策 成果と課題	<p>○少人数授業で個に応じた細やかな指導を行うとともに、習熟度別授業の導入を検討する。 ○生徒の学習の到達度を適切に評価し、自らの指導の改善に生かす取組を推進する ○シラバスを提示することで、家庭での計画的な学習習慣を支援する ○情報活用能力の育成をはかるとともに情報モラル教育を一層推進する</p> <p>昨年度に引き続き数学科で少人数授業（習熟度別授業）を実践した。その結果、全国学力学習状況調査において、全国、三重県の平均を上回る結果となった。本学年は昨年度までのみえスタディチェックにおいて県平均を下回っており、学習の成果が表れたものと考えられる。また「適切な評価」と「わかる授業」に関して、アンケート結果ではいずれも97%の生徒から肯定的な回答を得ており、新学習指導要領に基づく学びと評価に関しては一定の成果を上げることができた。タブレットを活用した授業にも積極的に取り組み、オンライン学習では授業を録画し、YouTubeに限定公開することで、生徒自身もいつでも学習の振り返りができるように試みた。さらに教師の授業研としても利用し、自らの授業を振り返る手立てとしても活用した。メディアリテラシーに関する学習も折を見て取り組んできたが引き続き取り組む必要がある。長期休暇や毎日の復習にIプリを活用し、生徒自身の学びのペースに合わせて活用している。今後はこれまで以上に家庭学習にも活用していきたい。</p>	
重点目標 2	<p>豊かな心と健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★豊かな人間性と感性、健やかな体の育成をはかります</li> <li>★多様性を尊重し、人権意識の育成をはかります</li> <li>★当たり前のことが当たり前に行える指導を徹底します</li> <li>★社会的・職業的自立と夢や志の実現をはかります</li> </ul>	3
主な方策 成果と課題	<p>○認め合い高め合う仲間づくりを進め、思いやりのある集団を育てる ○人の話を聴く力、受け止める力を向上させる取組を充実する ○先人による夢や志を持つことにつながる講演会等を実施する ○子ども人権フォーラムの変革を継続し、系統的に人権教育カリキュラムに位置付ける</p> <p>「仲間づくり」の項目では生徒の94%が肯定的に捉えており、保護者も昨年度より5ポイント上昇している。また「道徳・人権教育の充実」の項でも生徒からは97%が肯定的な評価をしており、保護者も4ポイント上昇している。このことから本校の取組が一定の評価を得ていると考えられる。しかし、「キャリア教育の推進」の項目では保護者の25%が否定的な回答をしており、「部活動の充実」では生徒の回答が11ポイント下がった。コロナ禍で職場体験学習や新人大会の中止などが原因とみられるが、行事や大会といった部分だけでなく、日常の指導においてもこの2点の改善は来年度の課題とみられる。</p> <p>始業式の式辞では今年度目指す生徒像として「当たり前のことをバカにしないでちゃんと行う」「夢や希望、目標」「CHALLENGE・CONSIDER・CONTROL」を掲げ、各学期始や末に講話や振り返りを行ってきた。1年間を通じて取組ことで、生徒たちの意識の向上がみられた。</p>	
重点目標 3	<p>地域とともにある学校の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★中学生の地域活動への参画に取り組みます</li> <li>★学校と家庭・地域が連携し、子どもを支える仕組みを構築します</li> </ul>	3
主な方策 成果と課題	<p>○中学生が地域の担い手として貢献する取組を計画し実施する ○学校公開日の取組みやホームページ、通信での情報発信により学校を地域に公開する ○四日市市版コミュニティスクールにより「地域とともにある学校」づくりを進める</p> <p>生徒の学校運営への参画意識を高めるため、生徒会を中心としてシトラスリボン運動やピンクシャツ運動等に取組んでいる。四日市市版コミュニティスクール初年度の活動でも、地域とともにある学校づくりを進めようと生徒が主体的に活動できる取組の実現を図ってきた。残念ながら今年度も地域行事の中止や学校行事への保護者・地域関係者の参加の制限など、家庭や地域とのつながりを構築することが難しい1年であった。しかしそんな中でも、学校公開日を年3回実施し、地域の皆様に来校頂き意見交換をする場を持たせた。またH.P. やすぐメールを駆使し、体育祭・文化祭をはじめ、中体連や駅伝などの様子をYouTubeを使って限定配信することで生徒の活動状況を保護者や地域に発信できた。また、CS運営委員会の助言により学校だよりを地域の回覧板に回す取組により、これまで以上に地域に学校の状況を発信できた。アンケートでも「情報の発信・受信」に関わる項目では、90%以上の保護者から支持を得たことは良かったと考える。</p>	

重点目標 4	学校の教育力の向上 ★小中の連携による「学びの一体化」の充実をはかります ★特別支援教育の充実をはかり、個に応じたきめ細やかな指導を推進します	3
主な方策 成果と課題	<p>○目指す子ども像の共有を図り、学習指導、生徒指導、人権教育の系統性を明確にする</p> <p>○定期的な乗り入れ授業と校区オンライン会議の実施により、中1ギャップの解消に努める</p> <p>○特別支援委員会を毎週実施し、推進体制と合理的配慮を踏まえた教育活動を充実する</p> <p>子ども人権フォーラムでの中学1年生全員と校区小学6年生全員による交流は学びをつなげる意味でも有効であった。また、小学校の卒業や中学校予備登校を前に、中学生と小学6年生とをオンラインで結び、学校生活を紹介したり、小学生からの質問を受けて中学生が答えたりする取り組みは、中学入学の不安を解消し、中1ギャップ解消への一助となっていると思われる。定期的な乗り入れ授業を実施できなかったことは来年度への課題として残るが、職員規模が少ない中、1年間を通じほとんどの期間に欠員が出ていたことに起因しているため、来年度はこのような状況にならないよう考えていきたい。</p> <p>特別支援教育については特別支援委員会を毎週実施し、支援が必要な生徒の情報交換と支援方法について協議を行っている。また、にじ学園から校外教育支援担当者を招き、支援学級の授業改善に活かしている。さらに、特別支援コーディネーターが各小学校を訪問し、来入学生の様子を、参観、情報の共有を行っている。</p>	

## 2 改善方針

確かな学力の定着のために、来年度も少人数教育（中でも習熟度別授業）の充実を図りたい。また、タブレットを活用した授業実践は一定の成果を上げているので、タブレットの持ち帰りを有効利用した家庭学習の定着を考えていきたい。同時に自宅でのタブレットの活用法をより充実させるために、メディアリテラシー教育にも力を入れていく必要がある。さらに、本年度は縮小せざるを得なかった体験活動やスピーチ、発表など言語活動の充実と学び合いを大切に授業づくりを進めていきたい。

豊かな心と健やかな体の育成については、キャリア教育の充実を課題とし、コロナ禍でも職場体験学習や職業講演だけに頼らない方法を模索していく必要がある。また部活動では部活動支援員を活用するなどし、教員の負担も減らしながら、生徒が対外試合だけでなく日々の活動から達成感を味わうことができる指導を模索していく必要がある。

地域とともにある学校の構築については、今年度より四日市市版コミュニティスクールに指定され、運営協議会でも様々な取り組みを検討した。防災ボランティア活動や地域福祉活動等を地域や保護者と連携して、コロナ禍により実践できなかった企画も含め、地域人材の積極的活用を図りながら実現していく。

学校の教育力の向上については、学びの一体化の乗り入れ授業を小学校側・中学校側にとってより有意義な活動となるように取組を改良していきたい。その為にも、授業の詳しい内容について小学校の担当や該当クラスの担任と連携を深めながら進める。また、特別支援教育についてもコーディネーターを中心に、支援が必要な生徒にとってより有益な支援方法となるよう協議する場とすると共に、保護者の理解を得にくい生徒が課題となっているためこの部分でも研修を深めたい。

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 三滝中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	【知】 確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生は基礎的基本的な内容をていねいに分かりやすく教えてくれる」と回答した生徒は98%と昨年度より2ポイント高くなった。教師が基礎・基本を定着させるための授業改善に努めることができた。</li> <li>・コロナ禍で、オンライン学習になったり学習における話し合い活動等が制限されたりと、落ち着いた状態で学習に取り組むことが困難なときもあったが、できる限り生徒が興味・関心等が高められるような取組ができた。</li> <li>・「授業中意欲を持ち、友だちと教え合ったり、深め合ったりして学習している」と答えた生徒が90%であった。授業づくりの工夫改善は、継続検討が必要である。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「体験学習を取り入れた授業で学習したことが、将来の自分に役立つと考えている。」と回答した生徒は89%であった。今後、体験学習をどのように取り組むかも含め、授業の工夫等が必要である。</li> </ul>	
重点目標 2	【徳】 豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校教育目標が『人を大切にする』であることを知っていて、その実現にむけて努力している」と回答した生徒が92%と昨年度より1ポイント高くなった。教師も生徒も学校教育目標を理解して活動できている。</li> <li>・「学校では、興味ある授業や意欲を持って取り組める行事が行われている」と回答した生徒が94%いた。引き続き、コロナ禍のなかでも生徒の興味・関心の高められるような授業づくりや行事運営について考えていきたい。</li> <li>・「人権学習を通して、一人ひとりを大切に、いじめや差別を許さない態度が身についてきている」と回答した生徒が96%であった。記述回答で人権学習の大切さについて回答している生徒もいて、成果が実感できていると考えられる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「『朝の読書』などの読書活動により、自分の読書に対する関心が高くなってきている」と回答した生徒は88%で、昨年度より1ポイント減少した。心を育むとともに、読解力を高めるためにも読書活動は大切である。文字に親しめるような取り組みを模索していく。</li> </ul>	
重点目標 3	【体】 健康・体力の向上 【安】 安心・安全	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学級や学年での友だち関係がうまくいき、楽しい学校生活が送れている」と回答した生徒が95%、「健康で安全な学校生活を送ることができている」と回答した生徒が97%と、学校が安心して過ごすことができる場所であると答えている。</li> <li>・「部活動や委員会活動に積極的に参加している」と回答した生徒は94%であった。多くの生徒が課外活動に積極的に参加できていると考える。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を含め、学校全体として、学校生活のルールが守られている」と回答した生徒が85%と昨年度より3ポイント減少した。また教師の「生活の基本となる事項の定着を図っている」の否定的評価が21%という結果であったことから、教師間で指導上の共通理解を図りながら取組（指導）を進める必要がある。また交通安全等に関して、特に自転車の乗り方などで継続課題があることから、今後も重点指導事項としていく必要がある。</li> </ul>	

重点目標 4	【開】 保護者・地域・関係機関との協働・連携	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校を公開したり、学校通信を発行したりして、連携を深めようと努めている」と回答した保護者が89%であった。引き続き、丁寧に情報発信を心がけていく。</li> <li>・本年度もコロナ禍により保護者参観等の行事も制限を加えていたが、例年、体育大会や三滝祭（文化祭）に大勢の保護者の方に来校していただいている。学校教育活動に関心が高い地域であることは大変ありがたいことである。</li> <li>・ホームページや学校通信等、情報発信してきたことで、ホームページの閲覧数も増えている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のなか、学校と保護者・地域とがどのように連携を図っていくか、今後の検討課題である。</li> <li>・ホームページの内容については改良の余地があると考えている。掲載内容に配慮しつつ、学校の様子により伝わるような内容にしていく必要がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>学校づくりビジョン達成に向けて、引き続き、教科指導、学級経営、生徒指導、進路指導等に対し、『チーム三滝』を意識して取り組むことが大切である。</p> <p>○ 学力向上の取組・教科学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習面において、生徒、保護者の肯定的評価が一層高まるよう、指導の充実を図り取組の発信に努める。学力向上システム『MITAKI』の実践継続、学習用タブレットの効果的な活用、個に応じた指導、教員の授業実践研修の充実や基礎学習・補充学習の活用・充実を図る。</li> <li>・地域子ども教室『三滝未来塾』が生徒の学習支援の場として有効な活動となるよう、地域との協力を継続発展させていく。</li> </ul> <p>○ 落ち着いた学校生活環境の継続徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援・不登校対策委員会を中心に各関係機関との連携を図りながら相談体制・支援体制を充実させていく。また、生徒間の主体的な問題解決の取組を実践することで、自分たちの学校を自分たちでつくる意識の高揚につなげる。</li> </ul> <p>○ 人権・福祉・環境教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし等の高齢者の方への色紙を贈る取組は、地域と学校をつなぐ貴重な活動として継続（協力）していきたい。</li> <li>・さまざまな分野の方と生徒との交流体験の充実を図る。</li> </ul> <p>○ 家庭や地域の信頼に応える学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な通信の発行及び学校HPの更新による情報発信は学校の大切な取組となる。コロナ禍のなか、地域行事への参加にも制限等があるが、引き続き、地域との連携に努め、教師・生徒の地域への参画・協働を進める。</li> </ul>
---

## 自己評価書

四日市市立 大池中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	学力の向上（知とのつながりを育てる）	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語活動、学び合いのある授業の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・制限ある中で一方的にならないよう意識し、十分ではなかったが学び合いに取り組むことができた。</li> <li>・ICTを上手に活用した授業づくりの必要性を感じるため、それに特化した研修を推進していく。</li> </ul> </li> <li>○基礎的、基本的な知識、技能の定着 <ul style="list-style-type: none"> <li>・iブりを活用している教科は、テストにも出題するなどして定着できているか確認する場を設定した。</li> <li>・小テストの積み上げで力をつけていく生徒も多くいる。今後でもできる限りそのような機会を増やし、生徒に力をてけさせていく。</li> </ul> </li> <li>○「トライやるタイム」で、学力保障 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上につなげるためには具体的な方策が必要である。</li> <li>・運用が学年または教科任せになっているので、各学年の取組を情報共有していく。</li> </ul> </li> <li>○「自主学习ノート」による学習習慣の習慣化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・上手に学習している生徒のノートの紹介や取り組み方を、時間をとって教えることも大切である。</li> <li>・保護者の自主学习ノートに対する評価は低いようである。</li> </ul> </li> <li>○特別支援教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人にあった合理的配慮を取り入れることで授業を充実させていく。しかし、それに伴う人員が不足している。</li> </ul> </li> <li>○幼保小中の連携（学びの一体化）の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本来何をすべきかという教師の認識の違いを合わせていく取組が必要である。</li> <li>・県・三重・三重北の3小学校で学習内容の統一をし、中学校に上がってくるというのが理想的な形である。それがある程度できていないと単なる情報交換会となり、積みあがっていかない。年度末または年度初めに取り組み方針の改善を話し合う必要がある。</li> </ul> </li> </ul>	

重点目標2	豊かな人間性と健康な心身の育成（人とのつながりを育てる）	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不登校の未然防止と改善の取り組みの推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク群以外の小学校からの引継ぎなどを密にしておきたい。</li> <li>・子どもとのコミュニケーション、観察などがやはり重要である。</li> <li>・進学後の不登校生徒がどのようになったかを知りたい。それが、指導にも役立つのではないだろうか考える。</li> </ul> </li> <li>○道徳教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員同士の事前・事後のコミュニケーションが大切である。</li> </ul> </li> <li>○規範意識、自己肯定感の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレのスリッパが揃っていないでも自分は困らないなど自分事として捉えられない部分がある。</li> <li>・自己肯定感を高めるための活動を工夫していく必要がある。</li> <li>・いつも話題にあがることだが、家庭と学校の連携が必要である。</li> </ul> </li> <li>○基礎体力の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業において、毎時間の補助運動や筋トレ、シラバス内容の見直しや1学期に陸上を取り入れたことは基礎体力の向上につながった。</li> </ul> </li> <li>○合唱活動の推進（学級・有志合唱） <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で有志合唱はできなかった。また、上級生の合唱を生で聴く機会が少なかったが、DVD視聴や学級練習風景を見学するなど、教師の工夫した取り組みにより、上級生の素敵な歌声やリーダーシップを発揮した指導方法、指揮者や伴奏者の感情あふれる表現等を下級生が見聴きすることができたため、いつかは自分たちもという憧れをもつことができた。</li> </ul> </li> </ul>	



重点目標 3	キャリア教育の推進（社会とつながる力を育てる）	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつ、マナー意識の向上           <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会の生徒たちによる「あいさつ運動」から、あいさつがしっかりできる生徒がほとんどであるが、なかなかできない生徒もいる。あいさつの意味や目的をしっかりと教え、教師自身が手本となれるようにしたい。</li> <li>・マナー意識について、学校内の生活面では周りへの配慮が見られるものの、交通ルール・マナーを守れず、地域住民へ迷惑をかけてしまう姿がある。地域・保護者と連携した取り組みが不可欠である。</li> <li>・あいさつはできている方ではある。（先生からあいさつをしていく）</li> </ul> </li> <li>○進路を切り拓く力の育成           <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で、様々な学びの機会が失われており残念な年であったが、制限のある中で、キャリアパスポートを使い、自分に必要な力や将来について継続的に考えていく取り組み等、各学年でキャリアを意識した学習に取り組むことができた。</li> <li>・全教科・学校生活全般で力をつけていくべきものと捉えていく。</li> </ul> </li> <li>○修学旅行、自然教室、職場体験学習の充実           <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の状況の中で、可能な限りできている。</li> <li>・修学旅行はコロナ禍で縮小されたが、子どもたちは限られた中で精いっぱい工夫を凝らし、仲間とともに楽しむことができ、集団としてのまとまりが見られた。</li> <li>・SDGsについて調べることを通し、自分ができることを考える取り組みができた。</li> <li>・職場体験はできなかったが、「プロに聴く」講演会を開催することができ、子どもたちの刺激となった。</li> </ul> </li> </ul>	

重点目標 4	地域とともにある学校づくり（社会とのつながりを育てる）	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域とつながる学習           <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でたくさんの地域行事が中止となった。特に1年生での「大池ウォッチング」が中止となったことは残念であるが、地域の国指定天然記念物である「御池沼沢植物群落」についての学習を、四日市市教育委員会社会教育課の方々からレクチャーしていただき、自分たちの住む町について知る良い機会となった。</li> <li>・通信の発行やHPで地域とつながろうとしている。今後も情報発信に努めたい。</li> <li>・地域の子どもたちを、学校、地域・保護者と一緒に見守っていくという認識ではなく、苦情という形が増えつつあることが残念である。学校・地域・家庭で協力して取り組む課題である。</li> </ul> </li> <li>○保護者・PTAとの連携による教育           <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の状況をきっかけに、保護者や学校の負担となるものは、軽減していく方向で活動の見直しを図ることも必要と思われる。しかし、「スマホ、携帯の使い方」、「親子人権学習」、「マナー講座」等、PTAと連携した講演会は、子どもたちの成長を保護者・地域と共有できるものであり、キャリア教育へともつながることから、次年度は再開できるものは取り組みを進めていきたい。</li> </ul> </li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識の向上について、中学へ入学してからではなく、小学校の段階から「時間への意識」や「人とかかわり方」について、小中の共通理解を持った上で取り組んでいく。</li> <li>・業間指導を見直し、今以上に生徒たちとの対話を重視した取り組みを進める。</li> <li>・教師の巡回指導において、支援を要する生徒への授業支援を行う。</li> <li>・特別支援教育を充実させるため、全教職員が共通理解のもと、地域コーディネーターやスーパーバイザー、スクールソーシャルワーカー等の外部機関への相談機会を持ち、支援方法についての研修を深めていく。</li> <li>・不登校生徒にとって、校内ふれあい教室（チャレンジルーム）が有益な場所となるよう、全教職員が共通理解のもと効果的に運用していく。</li> <li>・「学びの一体化」のあり方について、部会の整理なども含め、再度検討していく必要がある。</li> <li>・時代の流れについていくのではなく、学校から情報発信していけるよう、ICTの研修を深めていく。</li> </ul>
--

## 自己評価書

四日市市立 朝明中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	和 豊かな心の育成～人権教育や豊かな人間性を育む教育	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;アンケート結果&gt;  「道徳・人権教育の充実」3.6P(生徒)、3.2P(教職員)  「生徒指導上の問題への対応」3.4P(生徒)、3.3P(教職員)  「特色ある教育課程の編制」3.5P(生徒)、3.4P(教職員)</p> <p>&lt;成果&gt;  ○校舎の大規模改修が終了し、きれいな校舎でどの学年も落ち着いた生活態度・学習態度で知徳体のあらゆる面で成長が見られた。特に本校の校訓の一つである「和」の取り組みは充実できた。  ○コロナ禍で制約の多い中、校外に出ることは少なかったが、「総合的な学習の時間」を中心に、さまざまな分野の外部講師を呼んで学習を深めた。  ○休み時間や昼休み等も教師が学年フロアに行き、常に生徒とコミュニケーションを図ることを大切に。教育相談の充実を含め、教師と生徒の信頼関係の構築が全校体制で取り組んでいる。また、家庭訪問や関係機関との連携を深めることができた。  ○道徳や人権・同和教育に関しては、各学年が計画的に取り組めた。また、道徳の公開授業を行ったり、いじめに関する講演会を開催するなどしたため、生徒の評価ポイントが高くなっている。  ○キャリア教育、進路指導の一環として、社会や進路と学習の関わりについて考えさせる取組から、学習に対する姿勢が育ち、目的や目標を持って学ぶ姿がみられた。</p> <p>&lt;課題&gt;  ●いじめや差別をしてはいけないこととわかっていても、日常の言動に結びつかない事案も見られた。また「差別を絶対に許さない」という教師の意識も高めていく必要がある。  ●生徒指導について、情報の共有や指導の連携等、組織的な対応を充実させていきたい。  ●コロナ禍で地域との連携や諸行事への参加が制約されたので、今後模索していきたい。  ●自ら進んであいさつをすることができる生徒が少ないという課題が残った。あいさつを含めたコミュニケーション力の向上に、学校全体として取り組んでいきたい。</p>	
重点目標2	学 確かな学力の育成～基礎基本の定着と自主的・主体的に学ぶ姿勢を育てる教育	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;アンケート結果&gt;  「わかる授業」3.5P(生徒)、3.5P(教職員)  「特色ある教育課程の編成」3.5P(生徒)、3.4P(教職員)</p> <p>&lt;成果&gt;  ○帰り学活で1・2年生は、基礎基本の反復練習を中心とした補充学習、3年生は、進路学習を実施し、学力の向上をはかった。また、全学年による定期テスト時の質問日を実施した。  ○授業の「めあて」と「ふりかえり」を行い、1時間ごとの授業の主旨を教師も生徒も共有し、充実した授業が展開できた。またリモート授業もほぼ順調に実施できた。  ○校内研修で、「主体的」に考え、判断できる生徒の育成をテーマとして、公開授業週間を設定した。日々の授業の中で、生徒たちによる伝え合う力が向上し、基礎・基本の定着が図られた。また、本校版「授業の型」を意識し四日市モデルの「プロセス2」「プロセス5」を意識した授業づくりを目指し、意欲的に取り組む子どもの姿が多く見られた。  ○研修や評価検討委員会で「評価」について、何度も検証し、新しい評価にしっかりと対応できた。</p> <p>&lt;課題&gt;  ●コロナ禍で合唱や班での話し合い、調理実習等の制約があった。今後、授業の展開の仕方や生徒同士のかかわり方をさらに工夫していく必要がある。  ●「学びの一体化」もコロナ禍で中止が多く、保幼小中の連携が十分にできなかった。来年度は感染を見極め、相互の乗り入れを含め、検討していきたい。  ●コミュニティスクール7年目となるが、校外施設に出向いた地域学習などがコロナ禍により停滞した。来年度も同じ状況が続くなら、行事の精選・見直しが必要である。</p>	

重点目標 3	鍛 健康な心身の育成～体力向上への指導の充実と健康的な生活習慣の形成～	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;アンケート結果&gt; 「充実した学校生活」3.5P(生徒)、3.4P(教職員) 「部活動の充実」3.5P(生徒)、3.4P(教職員)</p> <p>&lt;成果&gt; ○体力面では、「体づくり」という観点で体育科を中心に、準備運動に「リズムエクササイズ」を取り入れたり、定期的に「持久走」を行ったりするなど、年間を通して継続的に取り組んでいる。その結果、新体力テストにおいて「ハンドボール投げ」や「50メートル走」などは、全国平均を上回っており、一定の成果をあげている。 ○部活動においては、コロナ禍で対外試合などが制限される中、部活動ガイドラインに基づいて、活動時間や活動内容を工夫し、多くの生徒が熱心に取り組む姿が見られる。ハンドボール部は全国大会にも出場した。 ○学びの一体化の「体づくり部会」はコロナ禍で、本年度も十分に連携することができなかったが、特に「持久力」、「柔軟性」を子どもに身に付けさせる取り組みは普通の授業において実施できている。 ○本年度、「ステップルーム」が開設され、学校に来られなかったり、教室に入れなかったりした不登校生徒の一部が学校で学ぶ姿が見られた。</p> <p>&lt;課題&gt; ●コロナ禍で、部活動の中止や対外試合の制限等が多かったため、体力向上や部活動の充実の面では課題が多く残った。今後の部活動の在り方を含め、活動方法を検討していきたい。 ●生活リズムにおいては、スマホやパソコンの利用の仕方に課題があった。誹謗中傷やゲームに依存した例も少なくない。昼夜逆転している生徒もいるため、外部機関も活用しながら、機器の使い方の啓発を一層進めていく。 ●登校サポートセンターや関係機関、本校のステップルーム等に通っていない不登校生徒へのアプローチを充実させる必要がある。</p>	

## 2 改善方針

<p>&lt;重点1&gt; 「和 豊かな心の育成」</p> <p>①「人権教育」 コロナの動向を見極めるとともに感染拡大の措置を十分とりながら、講師の生の話を聞いたり、地域の施設を訪れたりして、地域連携や体験活動の充実に重点を置いた指導を行っていききたい。</p> <p>②「道徳教育」 来年度は道徳の実践推進指定校を受け、大学教授や市教委の指導・助言を仰ぎながら、評価方法も含め指導内容を充実させ、実効性のある道徳教育を実践していく。</p> <p>③「読書活動」 各教科授業での活用を促進するなど、校内での推進はもちろん、地域や外部の力も借りてより一層充実できるようにする。</p> <p>④「安全教育」 来年度からの通学路の変更に伴い、PTA・地域・関係機関と連携し、交通安全指導に力を入れていききたい。また、外部講師を招いた交通安全教室も実施する。</p> <p>&lt;重点2&gt; 「学 確かな学力の育成」 来年度は「学びあい、認め合い、高め合う 教育活動の創造」を研修主題とし、教科の公開授業や道徳の研究授業を行うとともにタブレットの活用にも重点を置いて、研修に取り組む。</p> <p>&lt;重点3&gt; 「鍛 健康な心身の育成」 「部活動」においては、引き続き結果至上主義にならないように配慮し、精神・身体両面の総合的な人間形成を図っていききたい。 「心の健康」については、全校体制による日常の生徒との触れ合いを徹底するとともに、教育相談をはじめ生徒に寄り添う取組を継続する。またスクールカウンセラーや教育相談担当、関係機関と連携して、見通しをたてて取り組み、自分の心体状況を正しく捉える力、原因を考え自分で対処していく力を育て、自分の心身をコントロールできるよう取組を進めていききたい。</p>
---

## 自己評価書

四日市市立 保々中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	人を大切にし、気持ちよくあいさつする生徒を育てます ～人を大切に～	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;取組指標&gt;</p> <p>①生徒全員が、教員から少なくとも1日に一度はあいさつを含めて共感的姿勢による声かけを受けられるようにします。</p> <p>②あいさつの指導を継続的に行います。</p> <p>③日常生活や行事等での「ありがとうメッセージ」等に取り組みます。</p> <p>&lt;結果指標&gt;『自分からあいさつしている』という生徒の割合90%以上をめざします。 ⇒結果、93.5%（昨年度90.6%）</p> <p>あらゆる教育活動を通して、自分も人も大切に作る気持ちを持ち、「豊かな感性」（だいすき・つながる）を育てるべく、人権教育を根幹として仲間づくりを進め、「あいさつ」を象徴的に提示し取組を進めてきた。</p> <p>具体的には取組指標に加え、日常的な教職員からの挨拶や声かけ、生徒会活動でのあいさつ運動、授業や部活動におけるあいさつ、道徳等の授業であいさつの意義や人を大切にする事、人とつながることなどを指導している。また、学期に一度の教育相談等を活用し、生徒一人一人の声に耳を傾け、心の解放に向けて取り組んでいる。</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ自体はほとんどの生徒が習慣化し、定着してきている。しかし、まだまだ相手からあいさつされたときや、部活動などではあいさつするものの、自分からはあいさつできない生徒、授業のあいさつなどでは声の小さい生徒もいる。</li> <li>・自分を見つめ、人を大切にする気持ちを持ち、周りの生徒へ優しい言葉がけができる生徒、学級や部活動で協力的な態度を示す生徒は多い。しかし、人を傷つけまいとするがゆえに、本当の意味で仲間を大切にするための厳しい注意ができる生徒は少ない。</li> </ul>	
重点目標2	ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓に取り組む生徒を育てます ～当たり前を当たり前～	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;取組指標&gt;</p> <p>①清掃方法を工夫・改善し、はじめと終わりの点呼・あいさつ・指示・評価を行います。</p> <p>②掃除や整理・整頓の指導を継続的に行き、「がんばってるねメッセージ」等に取り組みます。</p> <p>③さまざまな場面で、当たり前のことを当たり前に行えるように継続的に指導します。</p> <p>&lt;結果指標&gt;『ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている』という生徒の割合85%以上をめざします。 ⇒結果、85.6%（昨年度83.0%）</p> <p>あらゆる教育活動を通して、自らの課題克服に向けて粘り強く取り組もうとする気持ちを持ち、当たり前のことが当たり前に行える力、「やり切る態度」（じっくり・やってみる）を育てるべく、「掃除」を象徴的に提示し取組を進めてきた。</p> <p>具体的には取組指標に加え、毎日の清掃時の指導や日常的な整理・整頓に向けた個別な関わり、継続的に粘り強く活動するためのていねいな言葉がけやサポート、個々の努力が周りの生徒に認められる場面の設定などに取り組んでいる。</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動については、ほとんどの生徒が時間いっぱい熱心に取り組んでいる。また、汚れたところを自主的にきれいにする姿や日常的に落ちているゴミを拾う姿も見られる。</li> <li>・上級生が掃除を頑張る姿や、それを評価してもらっている様子を見て生徒たちが頑張ろうとするよい雰囲気生まれてきている。</li> <li>・整理整頓については、教室のロッカーや引き出しなど不十分なところが多々あり、特に個別の関わりが必要である。また、教材が多く、机に入り切らなかつたり、ロッカー上のストッカーボックスにも入りきらない面もあり、教材の精選や整理できる環境整備も工夫が必要である。</li> </ul>	

重点目標 3	時間や期限を守り、授業を大切にしている生徒を育てます ～主体的な生き方・学びを～	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;取組指標&gt;          ①授業の始まりと終わりを大切に、宿題や自主勉強ノートの指導（点検・評価）を継続的に行います。          ②時間や期限を守る指導を継続的に行います。          ③自分の生活を振り返り、自分自身を向上させる指導を行います。</p> <p>&lt;結果指標&gt;『時間や期限を守り、授業を大切にしている』という生徒の割合90%以上をめざします。          ⇒結果、93.5%（昨年度88.7%）</p> <p>あらゆる教育活動を通して、時間や提出物等の期限を守り、学ぶ意欲をもって主体的に授業に参加しようとする、「生きぬく基礎」（すこやか・まなぶ）を育てるべく、「時間」を象徴的に提示し取組を進めてきた。</p> <p>具体的には取組指標に加え、委員会活動でのベル席チェックやリーダー一会からの声かけ、教師自身が授業時間を守る行動、わかる授業を目指した授業改善、指導と評価の一体化等の取組を進めている。</p> <p>&lt;成果と課題&gt;          ・授業のベル席については生徒同士で声をかける行動も見られ、ほとんどの生徒が時間を意識して行動できるようになってきている。また自主勉強ノートや宿題、提出物などについても多くの生徒が提出する必要性を感じ、期限までに提出できるよう努力する姿が見られる。しかし、個々には忘れ物や提出物などまだまだ意識の低い生徒はおり、個別の関わりが必要である。          ・授業の始まりのあいさつを徹底していることで授業への気持ちの切り替えをもち、授業に集中できる生徒が多くなってきている。しかし、授業に向かう姿勢は受身的な生徒が多く、まだまだ主体的に授業に参加できている生徒は少ない。</p>	

重点目標 4	生徒の保々地区への愛着の気持ちを育てます ～地域への愛着を～	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;取組指標&gt;          ①各学年、教科、委員会、有志等がボランティア活動や文化活動、校外活動等の地域に出向いて行う活動を継続します。          ②各種団体行事、地域奉仕活動、各種防災・避難訓練等への参加やあいさつ運動、交通安全活動を通して、「中学生も地域から頼りにされている」と実感させます。</p> <p>&lt;結果指標&gt;『保々地区が好き』という生徒の割合90%以上をめざします。          ⇒結果、90.8%（昨年度92.5%）</p> <p>教育活動の中で、自主的に地域の活動に参加したり、地域の人たちと関わりを持つことを通して、「地域への愛着」を育てるべく、取組を進めてきた。</p> <p>&lt;成果と課題&gt;          ・2年生の奉仕活動・聞き取り学習で地域に出向き、地域の働く人の姿にふれることを通して、働くことの意義や地域の方の温かさを感じてくることができた。          ・特別支援学級の菜園活動や地域の史跡めぐりを通して、地域の方の知恵や工夫、地域の史跡等にふれる機会をもち、地域の良さを感じ、お世話になった地域の方への感謝の気持ちを育てることができた。          ・地域の人文協活動（プラザ学習等）に積極的に生徒が参加し、主体的に人権劇や人権学習、仲間づくりに取り組み、人権劇については全校生徒や保護者、地域の人に向け、「自分を振り返ること」を題材に発信した。また、この劇をもとに各学級で人権学習をした。          ・育ちのプログラムを軸に、地域のこども園、小学校、地域が連携し、研修会をもった。          ・図書ボランティア、除草ボランティアを通して、保護者や地域の方が学校活動に寄与していただく機会ももてた。コロナ禍により、学習ボランティアは特別支援学級の活動のみになってしまった。          ・コロナ禍により、多くの地域の活動が中止となり、生徒が参加する機会がほとんどもてなかった。</p>	

## 2 改善方針

- ・今後も生徒や職員に定着してきている、重点目標「あいさつ」「掃除」「時間」「地域への愛着」を継続して取り組んでいく。
- ・教員は生徒にとっての目指すべき一つのモデルになる必要がある。そのためにも、研修や日常的な職員間の関係性の中で、教員自身の言動を今後も継続的に見直していく。
- ・全体的に生徒も落ち着いており、自分たちで行動しようとする生徒の姿勢や態度が多く見られる。教員がそこに安心してしまわず、より高い生徒の姿を目指して指導していく。
- ・生徒会、リーダー会などを生かし、生徒の主体性を育む活動を創造していく。また、集団や個別の課題に対して、注意して行動を正していくこと以上に、生徒自らが気づき、自分で行動していけるように働きかけていく。
- ・生徒の気持ちや背景等を理解し、生徒一人ひとりにあった対応を工夫していく。また、生徒間で互いの素敵な行いに気付く視点を持ち、その気づきを日々伝えられるよう仲間づくりの取り組みを行う。
- ・行事と日常の活動をつなげ、活動の意義や今後へのつながりを生徒自身が大切にできるよう働きかけていく。
- ・コロナの影響で、地域へ出た活動が難しいため、それに変わる取り組みを創造していく。

## 自己評価書

四日市市立 常磐中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着と指導の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>約9割の生徒が「基本的な内容をわかりやすく教えてくれる」と回答している。みえスタディチェック、NRT、全国学力学習状況調査などでも、全国平均を上回っており、2、3年生においては経年変化を見ても上昇している。特に、全国学力学習状況調査の「数学が好きか」という項目においては全国平均を大きく上回り、生徒が興味をもって学習に向かえていることがうかがえる。学年や教科が限られているものの、少人数学習、TT（チームティーチング）、児童生徒加配によるきめ細かな支援が生徒の学力向上、意欲向上につながっていると思われる。また、コロナ禍において小集団の学習活動や、実験、体験などが限られる中、ICTの活用などの研修を全体のみならず教師個々でも積極的に行い、生徒タブレットの有効活用、および提示資料の工夫などにより、学習効果が劣らないよう取り組めた成果であると思われる。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>豊かな人間性の育成をめざして、道徳・人権教育を学年ごとに取り組んできている。成長段階に見合った取組、また3年間の系統だった取組になるよう、各学年また学校全体としてのカリキュラムとなっている。各学年の生徒の状況に合わせて、3年間の見通しを持った指導になるようにしていくことを継続している。昨年度から性の多様性の学習を新たにカリキュラムに加えている。今後さらにただ単に継承するだけでなく、教員の研修を深めながら、教師自身も人間性を高め、社会の情勢、生徒の実情にあわせ指導にあたる必要性を感じる。また朝の読書の時間にも生徒は落ち着いて取り組んでいるが、さらに生徒が読書に興味を持ち、生活が充実していくように司書教諭を中心として読書活動を広げる企画を計画していきたい。福祉学習、職場体験学習などの総合的な学習に対する生徒・保護者の関心・評価も高いが、昨年度に引き続き、コロナ禍で制限のある活動になっている。今後も地域の協力を得ながら、事前指導、事後指導を含め、さらに充実した取り組みにしていきたい。福祉学習については、今後も四日市社会福祉協議会と連携して取り組み、充実した内容となるよう継続していきたい。</p>	
重点目標 3	生徒指導・生徒理解の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>始業前に全員が着席をし、落ち着いて授業に臨むことができている。服装については朝の会や始業時に点検しているが、ほとんどの生徒の服装が整っている状況である。毎週木曜日生活委員会を中心に「あいさつ運動」をPTA及び常磐地区社協青少年部のあいさつ運動と共に行っている。生徒自身も9割以上が規律を守り、落ち着いて授業を受けているという意識を持っている。引き続きふれあいタイムなどを通し、小さい荒れの兆候を見逃さず指導していくことで、落ち着いた学校生活を継続させたい。ただ、アンケートから教師の対応等にすべての生徒・保護者は満足しているわけではないという現状を踏まえ、毎日のTokiノート、学期ごとの教育相談期間などを通じ、きめ細やかなコミュニケーションを図って生徒の様子への把握に努めたい。また担任だけではなく、教科担当、部活動顧問など、職員間のコミュニケーションを密にし、スクールカウンセラーや各関連機関とも連携して生徒理解を心掛けている。学校に足が向かない生徒や、合理的配慮の必要な生徒など、多様化する生徒への細かな対応が、今後もさらに必要となってきた。今年度から、テストの別室受験に加え、1限目のみ別室での学習の機会を設けた。参加者は徐々に増え、今まで登校できなかった生徒の足掛かり、進路への意欲につながることができた。生徒指導上の問題が発生した時は、学年全体、学校全体の教職員が問題の解決に向けて連携を図っている。普段の生活の会話や表情の変化を見逃さず、安心できる学校環境作りに向けて、今後も一層努力していきたい。</p>	

重点目標 4	教職員の指導力の向上と組織の活性化	4
主な方策 成果と課題	<p>研修テーマ「学力を定着・向上させるための授業づくり」として本年度も問題解決能力向上のための授業（四日市モデル）づくりを継続しているが、加えて本年度からの学習指導要領の改訂を受け、評価の在り方についての研修会を重ねてきた。実際の授業での評価材料や評価基準など教科部会を何回も重ね、教科を超えて共有しながら研修を進めてきた。またICTの活用については全体での研修、OJTによる研修と多岐にわたり研鑽を深め、生徒の指導に生かしている。今年度、授業公開による研修は3つの教科群にわけ、有意義な研修になった。人権学習の授業研修も3年生全クラス公開により、分散して授業参観、意見交流した。また、個人公開週間を通して全教師が意識をもって授業改善に向かうことができた。校区全体の研修会も今年度は各分科会のみとなった。各学校の課題をお互いに把握しあいながら、有機的な指導の流れができるように、小中一貫した取組を目指している。</p>	

重点目標 5	保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>今まで、人権学習、福祉学習や職業体験学習を、地域の方と連携して計画し実施してきたが、昨年度に続き今年度も職業体験を地域で行うことができなかつたり、地域の方と連携した取組も限られた活動になっている。一旦縮小してしまった取組がいつか復活存続できるように、関係継続と資料保存に努めたい。またその中でも、生徒自身が地域に根ざし、将来的に地域に貢献できるような人材となるべく、地域と教職員の協働による活動をさらに進めていきたいと思う。昨年度からコミュニティスクールとして、地域の方々の学校への協力をいただいております。学校公開や行事へ参加いただいたり、ボランティア、竹馬整備、凧作りなどへの参加企画や貴重なご意見をいただいております。PTAでも職業講話「ザ・プロフェッショナル」を企画していただいております。コロナ禍で保護者に参加していただく機会が減少しており、オンラインでの配信等を試みた。さらに丁寧な学校通信、学年通信、ホームページなどを通じ、学校の様子、学年の状況を発信して信頼関係をさらに築いていきたいと思う。また保護者とは、問題となった時だけではなく、普段から話し合える関係づくりをさらに進め、信頼関係をもって共に生徒を支えることが必要であると考えている。個別の電話連絡、家庭訪問等によって保護者と連携しながら取り組んでいきたい。学校アンケートでいただいた保護者からの意見を学校運営に生かしていきたい。</p>	

## 2 改善方針

<p>最近の傾向としては、集団とのかかわり方に不安を持ったり、それぞれの家庭の状況が複雑で不安定になったりして不登校傾向にある生徒が多い状況である。授業に参加し、わかる楽しさ、学べる喜びなどを体験することや、集団生活の中での成功体験や学校生活の有意義さ感じさせることで、学校生活の中での心の安定を図れるよう、授業の充実および支援、行事等での工夫を行っていく必要がある。</p> <p>数学科・英語科の授業で行った習熟度別少人数編制による授業形態やT・Tの授業を継続することも有効と考える。さらに、教科担任だけではなく支援の教師による指導も効果的である。そのために、本校では、より多くの加配教員の活用が不可欠である。</p> <p>また、家庭学習の定着化も重要である。生徒自身が家庭学習の大切さを理解して、家庭での学習習慣が定着するように、「Tokiノート」を活用し、家庭と協働してすすめていきたい。</p> <p>補充学習として毎日行っている「Toki10」については、昨年度より5教科の基礎を取り組んでいる。今年度タブレット学習を取り入れ、個々の生徒にあわせて進められるようになっている。今後さら充実した学習になるよう検討していきたい。</p> <p>生徒指導で大切な「生徒理解の充実」について、引き続き重点的な取り組みとして継続していきたい。問題行動に対しては毅然とした厳しい態度で指導を行いつつ、そうなった原因や要因を見つめ、生徒の内面に迫れる指導を行う必要がある。PTAによって採択された「緊急アピール」に基づいた指導も、保護者の理解を得ながら続けていきたいと考えている。また、落ち着いている今だからこそ、現状に安心せず、職員全員が常に危機感を持ちながら、日々の教育活動を進めていくことが大切である。また、個々の家庭が抱えている課題も様々であるため、各関係機関とも密接に連絡、協力しながら、生徒が前向きに進めるような手立てを講じていきたい。</p> <p>部活動については、生徒指導上においても豊かな人間性を育成していく上でも重要な教育活動の一つであると考えている。多くの生徒が熱心に活動しており、どのクラブも日頃の練習の成果を発揮し好成績につながっている。しかし、長時間勤務の問題もあり、部活動ガイドラインに沿って、部活動のあり方や指導方針、活動計画などを検討して、有意義な教育活動としていきたい。</p>
--



【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 西笹川中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	多文化共生教育を基盤とした、創意工夫にあふれ、活気ある学校づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>すべての学校教育活動の基盤に多文化共生を位置付けて取り組みを行った。これまで本校では、外国につながるのある生徒の教育活動として多文化共生教育を行ってきたが、本年度は、多文化共生教育は外国人生徒も日本人生徒もともに取り組んでいくべき課題と位置づけ、多文化共生の考え方は、すべての生徒にとって将来にわたって大切なものであるということを念頭に置いて教育活動を進めた。その結果、生徒へのアンケートでは、「国籍や文化の違いを互いに認め合って生きていきたい」という項目で肯定的回答の割合が96.9%(前年比+0.7ポイント)であった。</p> <p>具体的には、多文化共生サークルによる校内行事や外国籍の本校の卒業生を招いての講演会のほか日本人・外国人の在校生・卒業生がパネラーとなって開催したパネルディスカッションなどを通して一人ひとりの生徒に多文化共生の考え方を意識づけることができたと思われる。</p> <p>次年度以降も様々な取組を通して、多文化共生の考え方の定着を図り、実際に行動できる生徒の育成を図りたい。</p>	
重点目標 2	キャリア教育の充実と進路保障	4
主な方策 成果と課題	<p>各学年の活動を通してキャリア教育の充実を図った。コロナ禍で2年生の職場体験学習や3年生の修学旅行における聴き取り学習などが実施できず、内容的には十分な取組ができたとはいえない状況である。このことは学校アンケートの結果においても数値に表れており、コロナ前の一昨年度との比較で、生徒・保護者ともに肯定的回答の割合が下がっている。(生徒-0.7ポイント、保護者-7.0ポイント)</p> <p>今年度は校外での体験学習に替えて、様々な分野から講師を招聘して講演会・職業講話を数多く開催した。それぞれの意味は大きかったと思われるが、やはり実際に職場に出向いて体験する活動には及ばなかったことは残念であった。今後は、3年間を見通したキャリア学習を再構築するとともに、ICT機器の活用などによって実際に現場に出ることができない状況でもキャリア学習を進めていけるよう工夫が必要と思われる。</p>	
重点目標 3	毎日登校し、授業を真剣に受けようとする態度の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>本年度も多くの方に授業の様子を参観していただいたが、子どもたちの学習に向かう姿勢については、ほぼすべての方から好評価をいただいた。1時間1時間の授業を大切に、真剣に学習に取り組んでいる姿を外部の方から評価していただいたことは、学校として大変ありがたいことと考える。一方で本校の課題でもある不登校生徒については、本年度も昨年と同程度の人数が見込まれ、様々な対策を施して少しでも登校できるよう努力したが、結果に結びつくところには至らなかった。次年度以降は、教育相談やスクールカウンセラーによる相談をさらに充実させ、一人でも不登校生徒の削減につながるよう努力していきたい。</p>	

重点目標 4	自ら進んで挨拶をし、環境美化に努め、時間を大切に作る生徒の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>校内外ともに生徒は良く挨拶をし、地域の方からもお褒めの言葉をいただくことが多かった。校内でも廊下等でのあいさつもしっかりとできる生徒が多く、今後も自ら進んで気持ちの良い挨拶ができる生徒を育てていきたい。</p> <p>環境美化については、校内での清掃時間には一生懸命に清掃に取り組むことができる生徒が多く、生徒アンケートにおいても、88.1%の生徒が「ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている」と答えている。</p> <p>時間に対する意識は、81.4%の生徒が「きちんと時間や期限を守っている」と答えているが、朝の遅刻が多いなど十分に時間の意識ができていない生徒も一定数存在する。学校全体として時間を守ることの大切さを教えていきたい。</p>	

重点目標 5	よりよく生きるための学力保障	3
主な方策 成果と課題	<p>本年度は、学習環境のICT化が一気に進み、タブレットを活用しての学習が日常化した。多くの授業でタブレットを使用して情報収集やドリル学習をするなど学習の進め方自体に大きな変化をもたらしている。このような中、生徒の授業に対する興味・関心は高まってきていると言える。また、学習の個別最適化についても徐々にではあるが進んでいるものと考えられる。このことは生徒アンケートの、「学校の授業はわかりやすい」91.7%(昨年度89.0%)や「自分に合った学習指導をしてくれる」95.9%(同93.8%)の結果に表れている。一方で、「自分の考えや意見を述べるのが得意」の項目では、56.5%(同49.3%)と依然として低い値となっており、ペアやグループでの活動などを通じて、自分の考えや意見を表現する力をつけていく必要があると考えられる。</p> <p>ICT機器のより効果的な活用について研修を進めるとともに、自分の考えを積極的にアウトプットする力を育てるよう授業改善を進めたい。</p>	

## 2 改善方針

次年度に向けて次の4点を改善していきたい。

- 1 多文化共生教育のさらなる充実
  - ・ 多様な講演会やパネルディスカッションなどを通して、自身の中に多文化共生の考え方を根付かせるとともに、将来の多文化共生社会の実現に向けて自ら行動する力を養う。
- 2 登校サポート体制の充実
  - ・ 登校しづらい生徒に対する支援体制を充実し、保護者と連携を図りながら少しでも登校できるよう取り組みを進める。
- 3 キャリア教育の充実
  - ・ 実体験を基盤にしたキャリア学習に取り組み、自分の将来の姿について具体的にイメージできるように学習を進める。
- 4 学力向上の取組
  - ・ ICT機器の有効活用を進め、学習の個別最適化を図る。

## 自己評価書

四日市市立 三重平中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

	自立のためのキャリア教育の推進	3
重点目標 1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「わかる」「できる」授業づくりをすすめ、基礎・基本の定着をはかります</li> <li>2. 「当たり前のことを当たり前にする」ことを基盤とし、生徒自身が「自分たちで創りあげる」学校を目指します</li> <li>3. 夢や志を持てる取り組みをすすめます</li> <li>4. 論理的思考力の育成をめざし、主体的・対話的で深い学びによる授業づくりをすすめます</li> <li>5. 働きやすい職場環境づくりをすすめ、教師力の向上をはかり、指導に活かします</li> </ol>	
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○めあての設定、視覚的教材の使用やICTによる提示、基本的な内容の反復や小テストの実施により、達成度や定着の度合いも確認し、また、課題の残る生徒への支援の方法を考え、補充学習も行い、基本的な力の定着につなげることができた。また、数学・英語においての習熟度別少人数授業では、自分で希望するクラスを選択できることで学習に意欲的に取り組むことができている。「学校アンケート」において「学校の授業はわかりやすいですか」との問いに肯定的に答えた生徒は94%であった。また、生徒の興味・関心の高まる教材の選定・提示の工夫をすることで、生徒が学びの楽しさを感じている様子が伺えた。今後も、基礎基本の定着を大切にした論理力・思考力を養う継続的な授業づくりに取り組み、さらに生徒が主体的・能動的に学習に取り組める授業展開の工夫に努める必要がある。また、放課後に生徒にも教員にも負担にならない程度で、欠席の多い生徒への対応も含めて、(計画的に)もう少し補充学習等ができるとうい。</p> <p>○ICTを活用した視覚支援を意識して取り組んだが、生徒がICT機器を使用する「生徒たちで創り上げる学習」までは至らなかった。また、コロナ禍で急速に進んだICT教育により、担当者の負担が急増した。今後もこのような流れが予測されるため、ICT担当も各学年1名ずつ配置し、複数で担当する必要がある。</p> <p>○「当たり前のことを当たり前にする」を学年目標として、生徒とも共有して取り組むことができた。</p> <p>○3年目を向かえた体育祭では、上級生の生徒のイメージも高まり、企画・準備段階から生徒の実行委員会や生徒会において出される意見や下級生への指示などの生徒の取り組みもレベルが上がってきており、「生徒の手で創り上げる行事」となっている。</p> <p>○キャリア教育においては、「志」授業や進路学習など、「生き方」や「進路選択」などに1年生から取り組むことができた。各学年でのキャリア教育の取り組みは、生徒一人ひとりの進路・生き方についての意識の向上につながっている。</p> <p>特に、マナー講習会や職業講話など、外部から講師を招いての学習の効果は大きく、今後も総合的な学習での高校調べなどの進路学習なども充実させるとともに、職場体験も含め、できる限り地域の方々と交流も図りながらキャリア教育の充実を図り、将来の自分を見つめ、夢に向かって「今できること」を考えさせていくことが必要である。</p> <p>○部活動の改革や柔軟な日課変更等の対応により放課後の時間を有効活用できることが多くなった。また、その分、生徒の些細なことについても話ができ職員同士のコミュニケーションが多くとれるようになった。あわせて、業務の多い他の教員の手伝いをしながら、声を掛け合い、互いになるべく勤務時間内に仕事をすすめる努力と雰囲気づくりが進められた。</p>	

	豊かな人間性の育成	3
重点目標 2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自尊感情を高め、コミュニケーション力の向上をはかります</li> <li>2. 一人一人を大切に、きめ細やかな指導をします</li> <li>3. いじめや差別を許さず、互いに認め合い支えあう仲間づくりをすすめます</li> <li>4. 「三重平ならでは」の特色を活かした教育をすすめます</li> <li>5. 心身の健康や安全に関する意識を高めます</li> </ol>	
主な方策 成果と課題	<p>○「平っ子タイム(SST)」は3年間の変化を見ても、本校の生徒にはとても有意義で重要な取り組みであり、今後の継続と充実が望まれる。不登校生徒の増加を防ぐためにも、自尊感情を高める教育活動は、「平っ子タイム」を重点活動として継続していくことで、さらに充実させていく必要がある。また、「平っ子タイム」で培える対話力等を授業や行事で活かしていく指導が必要であり、さらには、このコロナ禍の中でいかに深め充実させるかという検討は急務である。一方、家庭科の授業で取り組んだ「1人調理実習」は、一人ひとりに自信がつきやすく、身にもなりやすいと感じた。コロナ対策ではあったが、想定以上の成果があったと感じる。</p> <p>○人権講演会や人権フォーラム等を通して、「いじめ」「差別」を許さない感覚を身に着ける機会を設け、生徒に深く考えさせることができた。不登校の生徒が多い中、周りの生徒は互いの立場を理解し、温かい気持ちで見守り、受け入れることができ、仲間意識・人間関係は少しずつ深まってきていると思われる。今後も生徒が互いに個々の良さを知りあい、つながっていく機会や場面を日常的に意識的に作っていく必要がある。</p> <p>また、今後も引き続き、休み時間などにできる限り廊下や教室で生徒の様子を丁寧に観察し、不調な生徒や気になる生徒には声をかけ、話を聞き、生徒の抱える友人関係等の悩み等に対し、アンテナを高くして早急に対応することで、欠席の増加や不登校傾向に陥ることを防いでいきたい。</p>	

	地域とともにある学校づくり	3
重点目標 3	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校運営協議会を中心とし、家庭・地域の学校教育への参画をすすめます</li> <li>2. 地域と連携した事業に積極的に参加します</li> <li>3. 積極的に情報発信し、開かれた学校づくりをすすめます</li> <li>4. 保幼小の教職員と連携・協働して生徒を育成します</li> </ol>	
主な方策 成果と課題	<p>○子ども教室や防災教室など、地域の方の協力体制のもとに行われる行事・活動には、部活単位も含めて「積極的に参加する」という意識を持ち、生徒への呼びかけを進める。また、一方で、地域と連携した事業や活動に参加することと「働き方改革」とのバランスをうまく取るためにも、地域への情報発信と共に参加体制などに工夫を要する。</p> <p>○学校ホームページの活用をさらにすすめる。学校の行事や生徒の活動等の紹介にとどめず、学校の課題や悩みなども地域へ紹介し投げかけることで、協力を呼びかける面もあっても良いのではないかと。</p>	

## 2 改善方針

<p>○「平っ子タイム」は生徒の人間的な育成に大変効果があり、意義は大きく、その充実と継続が望まれる。</p> <p>○学ぶ楽しさを味わい、さらに能動的・主体的に取り組めるような教材の選定や授業展開の工夫に努める。</p> <p>○今後も、日常の教育活動の中で「互いに認め合い、支えあえる仲間づくり」をすすめ、「学校が良い居場所」と感じてもらえるような人間関係づくりに意識して取り組んでいく。</p> <p>○生徒の様子等については、報・連・相を徹底し、情報共有も含め、迅速に協力体制を組んで早急に対処する。</p> <p>○できる限り1つの分掌に教員を複数配置し、相談・分担し負担軽減をしながらチームとして業務が果たせるようにする。</p>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 羽津中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○キャリア教育の視点を大切に学習の推進 4つの力を育成するための活動に制限がかかり、十分な活動を行うことができなかったことから評価は下がっている。一方で、職場体験の代替活動として外部講師による複数回の講演会やオンラインでの効果的な指導方法等を模索することはできた。教科指導はもちろん、部活動や生徒会活動などすべての教育活動の中でキャリア教育の視点で取り組むことを再度意識していきたい。</p> <p>○めあてとふりかえり活動の充実 授業の始めにめあてを板書するなど、生徒に目当てを明確に示し、振り返り活動を行うことで、めあてにどれだけ近づくことができたのかを、生徒自身が確認（メタ認知）できるよう取り組んだ。ICTを活用することでふりかえりの状況を定量的に見ることができ、生徒の行動にも変容がみられた。また、生徒一人ひとりのふりかえりを通して、その時間の学びに意味づけができた。今後も「めあて・ふりかえり」を意識した授業づくりを推進していきたい。</p> <p>○家庭学習の推進 昨年度からデスタ学習のねらいを、生徒が自分で考え、自分の力を伸ばしていけるように「家庭学習の定着」から「主体的に学ぶ姿勢への支援」へ変更した。2年目になり、有効活用できている生徒とそうではない生徒の差がみられはじめ、一人一人の生徒が効果的な家庭学習に取り組めるよう教師の声掛けや指導方法等の研修を深めていく必要がある。</p>	
重点目標 2	心を豊かにする羽津らしい活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○生徒主体の学校行事の推進 各行事が縮小開催となる中、生徒は今の状況で出来ることを精一杯行う姿があった。特に、生徒会ダンスや合唱コンクールでは、羽津中生として誇りをもって取り組めた。その結果、生徒が楽しみつつ達成感を感じることができ、文化祭や生徒会活動に関する評価は維持された。生徒のモチベーションを保つには、学校のみならず地域や家庭の支えが必要不可欠であり、今後教育活動を進めるうえで、開かれた学校づくりを意識していきたい。</p> <p>○文化・芸術活動の充実 「山のコンサート」や文化・芸術体験は、中止もしくは大幅な活動内容の縮減となり残念であった。特に「山のコンサート」は保幼小が一体となって取り組み、地域の伝統として定着しつつある行事である。2年連続で中止となったことで、来年度以降、中学生として「山のコンサート」に参加し、運営した経験のある生徒が在籍しなくなるが、内容の精査を図りながらも、継続できるよう取り組んでいきたい。</p> <p>○道徳・人権学習の充実 感染症に関わる差別やメディアリテラシーなど、身近で喫緊の課題について取り組んだことで、より実情に応じた学習となった。また、道徳の授業においてもICTを積極的に活用することで、「考え・議論する道徳」の授業づくりに取り組めた。</p>	

重点目標 3	相互信頼に基づいた生徒指導	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○不登校対策の推進 本年度から市教育委員会「不登校対策推進事業実施要項」に基づいた不登校対応教員を校務分掌上に位置づけ、校内適応指導教室（つばさ教室）を設置した。これにより、ゆるやかな登校、学習機会と学校での居場所を確保することができ、昨年度に比べ、不登校生徒数が減少した。今後は、つばさ教室に通級することができない不登校生徒への支援の質を高める必要がある。</p> <p>○生徒指導の充実 生徒指導委員会を中心に、学校全体で情報共有を図ることができた。教育相談やQU調査、いじめ調査などを活用し、教職員が生徒の変化に早く気づき、本人の困り感にそった初期対応を心掛けた。また、学校だけでは対応できないケースは、関係機関やSC、SSWなどの専門職と連携し、「チーム羽津」として支援を行えた。きめ細やかで丁寧な支援・指導には時間が必要であり、働き方改革とのバランス調整が必要である。</p>	

## 2 改善方針

<p><b>【重点目標 1】 確かな学力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育（社会的・職業的自立のための4つの力）の視点で、生徒が自らの成長を感じ取ることができるよう取り組みを推進する。</li> <li>・授業のめあてを明確にし、振り返り活動を行うことで学びを深める。</li> <li>・本校独自の生活ノート「DAILY STUDY」を活用し、“主体的に学ぶ姿勢への支援”を行う。</li> </ul> <p><b>【重点目標 2】 心を豊かにする羽津らしい活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・羽津地区の保幼小中が連携して一堂に集う「山のコンサート」や「学校コンクール」「生徒会ダンス」は、生徒主体の実行委員を組織し、羽津中の伝統として受け継がれている。この伝統を切らすことなく精査しながら、さらなる発展を図っていく。</li> <li>・学校だよりや学年通信、ホームページを活用して保護者や地域への日常的な発信を行い、保護者や地域との連携した学校づくりを継続する。</li> </ul> <p><b>【重点目標 3】 相互信頼に基づいた生徒指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の変化に早く気づき、問題行動や生徒の情報を敏速に共有し、きめ細やかな生徒指導を継続する。特に教育相談の充実を図り、生徒との信頼関係を深める取り組みを推進する。</li> <li>・校内適応指導教室に通級することができない不登校生徒への支援の質を高める。「チーム羽津」として、本人の困り感によりそいSCやSSW、養護教諭や専門機関等との積極的な連携を図る。</li> <li>・保幼小との連携を深め、児童生徒の情報交換をより一層密にし、個々の生徒を理解した生徒指導や教育相談を実施する。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 西朝明中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	生きて働く学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>・ICTの活用を含めユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業づくりを目指した。また、数学科の習熟度別授業、英語科の少人数授業の実施など、多様な生徒一人ひとりに応じた学習の充実を目指した。教職員自己評価は3.6から3.1と下がっているが、学調などの点数が取れていないことも大きい。ただし、生徒アンケート「学校の授業はわかりやすい」に対する肯定的回答93.2%、「学校の授業では、めあてや学習の見通しが示され、学習の振り返りも行われ、何をどう学習すればよいか、何ができればよいか分かりやすい。」に対する肯定的回答93.2%という結果を得ることができた。また、「一人一台タブレットPCなどICT機器を使用した学習は分かりやすい」に対する肯定的回答90.7%、「一人一台タブレットPCなどICT機器を活用した学習では、自分の考えをまとめたり意見交流するときなどにICT機器は役立っている」に対する肯定的回答が94.6%との結果となっている。</p> <p>・今後は家庭学習やスマホなどの利用状況など、家庭学習の習慣化やスマホなどの利用に関する家庭のルール決めなど、生徒の意識を高める指導の工夫・改善が課題である。</p> <p>・探究的な学習について、コロナ禍により行事等が縮小・中止になったが、できる範囲でできる事を進めることができた。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>・コロナ禍の中、体育祭・文化祭をはじめとする学校・学年行事を縮小し保護者参観もなくしたが、生徒主体をキーワードに取り組みを行ったところ、生徒アンケート「学校生活は楽しい」に対する肯定的回答96.4%、「体育祭・文化祭などの学校行事は自分たちが主体となって取り組み充実した内容にすることができた」に対する肯定的回答98.2%であった。</p> <p>・特別支援教育推進委員会にSCを交えて週1回行うことで、気になる生徒の情報を共有・意見交換し合理的配慮に努めた。特支委員会の内容や日々の状況を全職員で共有（共有フォルダや回覧等）することで、学校全体としての意識は高まった。</p> <p>・保護者アンケート「命や人権を大切にしている意識が子どもの中に育ってきている」に肯定的回答90.3%で昨年より約3%上がっている。</p> <p>・保護者アンケート「学校は、子どもたちの悩みや困り感を受け止め、きちんと相談にのり、対応してくれる。」、「学校は、いじめや暴力などさまざまな問題を見逃さずに指導しており、安心して子どもを通わせることができる。」に対する肯定的回答がそれぞれ78.7%、79.9%と低くはないものの、生徒との教育相談の状況や、いじめ・人間関係のトラブル、SNSのトラブル等への予防や取組の状況を丁寧に家庭に伝える工夫をする必要がある。</p>	

重点目標 3	地域とともにある学校の実現	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により昨年に引き続き地域の活動が中止になるなど、今後継続して活動していくためにも「防災@にしあさけ」について感染症対策をとってできる範囲で実施することができた。また、地域ボランティアに参加したいと生徒自ら声をあげ、実施することができた。地域とともにある学校を進めるにあたり、継続した活動として今後も続けられるよう、中止ではなく規模を縮小しても実施するという状況をつくることができた。</li> <li>・学校運営協議会での協議から、部活動の見直し等を進めることができた。また、生徒が地域貢献・社会参画につながる機会を得ることができた。</li> <li>・PTA活動においても、総会の書面議決への変更等に加え、コロナ禍でできない活動の代替を工夫して行うことができた。また例年多くの保護者が参観する体育祭・文化祭等の学校行事を無観客にしたが、生徒の安心安全を優先して支持を得られた。</li> <li>・学びの一体化の会議を新教育プログラムの6つの柱に合わせた分科会とし、オンラインではあったが話し合う場を持つことができた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、教育計画の大幅な見直し・精選にあたって、生徒主体の学校づくりを柱とし、生徒が達成感を得られた活動とすることができた。また、これまで大切にしてきた活動をコロナ禍で継続できない状況としないため、「つなぐ」ことも念頭において学校運営及び教育活動全般について、進めていくことができた。</li> <li>・一人一台タブレットにより、多角的な授業が行えるようになった。また、オンライン授業を急遽行うことになった際も、1学期での取組を土台に予想以上にスムーズに実施できた。今後は、個に応じた学習の設定や低学力の底上げなど、学力向上につなげられるような実践を進めていきたい。また、引き続きICT機器を効果的に活用したユニバーサルデザインの授業づくり、「視覚化」「焦点化」「共有化」を図り、誰もが分かりやすい授業づくりを進めていきたい。</li> <li>・特別な支援が必要な生徒、不登校の予防及び学力保障は本校の取り組むべき大きな課題である。ICT機器の活用及び別室での指導・支援等、これまで進めてきた学校としての体制を継承し、その充実を図ることで、その生徒に応じた合理的配慮を行い、学力・進路保障を進めたい。</li> <li>・学校運営協議会を中核として、防災@にしあさけや生徒会・有志や部活動単位での地域行事の参加など、これまでの取組を継続させられるよう、地域とともに生徒が地域社会に参画できるよう活動を進めたい。また、PTAの支持・支援を得ながら、学校・家庭・地域が協働できる学校づくりを進めたい。</li> </ul>
---



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 桜中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
<p style="text-align: center;">主な方策</p> <p style="text-align: center;">成果と課題</p>	<p>(1) 校訓(自立・勤勉・敬愛)に基づいた方針            ①主体的・対話的な深い学びの推進(自立) ②「わかる授業」づくりと家庭学習の充実(勤勉) ③問題解決的な能力の育成(敬愛)</p> <p>(2) 具体的な方策            ①授業公開の推進(授業公開週間の設定) ②英語科の少人数教育の実施(第2学年) ③ICT機器(一人一台タブレット)の活用と学び合い学習の推進 ④教科部会の充実と自己評価活動 ⑤毎日の10分間基礎学習タイムの実施 ⑥朝の10分間読書の推進 ⑦教科におけるジャンプの課題等の設定</p> <p>(3) 成果            ①生徒の授業評価 ※評価は4段階            ○わかる授業づくりと家庭学習の充実・・・R2年度3.6 → R3年度3.5            ○問題解決的な能力の育成・・・R2年度3.7 → R3年度3.5</p> <p>(4) 課題            ①主体的な学習態度の育成            ここ数年の全国学調結果やスタディチェック検査から知識を活用する問題を苦手としている生徒が多いこと、平素の授業から受け身の学習態度の生徒が多いことが課題として共有されている。このことから、今後も主体的・対話的で深い学びの定着をめざした学習を一層推進する必要がある。</p>	
重点目標 2	豊かな心と健やかな体の育成	3
<p style="text-align: center;">主な方策</p> <p style="text-align: center;">成果と課題</p>	<p>(1) 校訓(自立・勤勉・敬愛)に基づいた方針            ①将来を見据えたキャリア教育の推進(自立) ②体育・健康の指導の充実と食育の推進(勤勉) ③より良い仲間づくりによる人権教育の推進(敬愛)</p> <p>(2) 具体的な方策(コロナ禍で大きく変更)            ①職業体験の実施(第2学年)→職業講話 ②食育集会の実施(各学年での指導)            ③QU調査、いじめアンケートの実施 ④人権講演会の実施(第1、2学年)            ⑤全学年による道徳授業公開と研修会の実施 ⑥3年間を見通した教育計画(学びのカレンダー)の策定</p> <p>(3) 成果            ①生徒・保護者の評価 ※評価は4段階            ○キャリア教育(進路関係の学習)            生徒・・・R2年度3.5 → R3年度3.4            保護者・・・R2年度3.2 → R3年度3.2            ○人権教育(いじめ差別の解消に向けた学習)            生徒・・・R2年度3.6 → R3年度3.5            保護者・・・R2年度3.3 → R3年度3.3</p> <p>(4) 課題            ①健康関係の保護者の低評価            健康関係の学習・・・R3年度評価3.1 *昨年度よりは評価アップが、全体で最も低い数値であった。            ②計画的、啓発的な取組の実践            健康関係の学習を2学期に実施した。昨年度まで3学期開催で、その年度の学校生活に活かされにくかった。さらに1学期からより計画的な実施を策定するとともに、家庭にもしっかりと伝わる取組の実践が必要である。</p>	

重点目標 3	信頼される学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1) 方針</p> <p>①きめ細かな教育相談・特別支援教育の推進 ②計画的な安全教育・防災教育の実践 ③教職員の資質の向上とより良い教育環境の実現</p> <p>(2) 具体的な方策</p> <p>①年3回の教育相談の実施、QU調査の実施、②特別支援委員会の充実 ③授業における支援の実施 ④防災教室の実施(第1学年) ⑤地域防災フェスタへの参加→中止 ⑥さまざまな仕掛けの避難訓練の実施(学期に1回) ⑦交通・防犯・ネットモラル等の講演会の実施 ⑧各種研修会へのZOOM等での参加 ⑨ボトムアップによる職員意識の向上 ⑩月2回の定時退校日や週2回の部活動休養日の設定 ⑪職員会議の効率化及び職員の意識改革</p> <p>(3) 成果</p> <p>①支援体制に対する生徒・保護者の評価 ※評価は4段階</p> <p>○きめ細かな相談・支援</p> <p>生徒 . . . . . R2年度3.6 → R3年度3.5</p> <p>保護者 . . . . . R2年度3.2 → R3年度3.3</p> <p>(4) 課題</p> <p>①生徒理解をするための時間の確保</p> <p>学校における働き方改革ときめ細かな生徒理解を両立するためには、今後も学校教育活動全体を見直し、積極的な行事の精選を実施していく必要がある。特にコロナ禍での活動について地域との協力体制を構築する必要がある。</p>	

重点目標 4	家庭と地域等との連携	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(1) 方針</p> <p>①コミュニティスクールの推進 ②地域に開かれた学校の推進 ③学びの一体化の推進</p> <p>(2) 具体的な方策</p> <p>①地域行事への積極的な生徒の参加 ②学校公開日の設定と参加への呼びかけ ③地域団体との連携(安全・社協等) ④学校だよりや学年だよりの発行 ⑤ホームページの定期的な更新 ⑥中→小への乗り入れ授業の実施</p> <p>(3) 成果</p> <p>①コミュニティスクール運営委員の高評価 ※評価は4段階(最高評価4.0)</p> <p>○地域に開かれた学校の推進 . . . . . R2年度3.5 → R3年度3.5</p> <p>○コミュニティスクール活動の推進 . . . . . R2年度3.7 → R3年度3.7</p> <p>(4) 課題</p> <p>①学校の地域等と連携した活動は、充実した活動を目指すほど、その調整等は勤務時間内でやりくりすることは難しく、結果として教員の負担が多くなる。</p>	

## 2 改善方針

これまでの学校経営は、本校の課題の明確化に基づいた学校づくりビジョンの改訂（平成29年度）から、地域理解と地域貢献をめざしたコミュニティスクールの活性化などを踏まえ、教育活動全体を通して豊かな自立性を備えた生徒の育成を軸としてきた。

今年度、昨年度に引き続きコロナ禍において、様々な学校行事や地域行事が縮小や中止となった。しかし、昨年度の反省も生かしながら、行事の精選や開催方法など今までにない工夫により、大きな成果が感じられる活動となってきた。

しかし、過去の本校の強みであった「安定した学力」であったり「不登校生徒の少なさ」については、この数年で大きく崩れてきている。

こうした現状を打開するためには、「生徒が楽しく安心して主体的に学び生活できる学校」をめざし、「授業改善・キャリア教育・人権教育の充実」により再構築していかなければならないと考える。

特に、キャリア教育と人権教育については、計画性はもとより地域との連携が重要であり、授業改善は新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」をいかに実践できるかにかかっている。

今後もキャリア教育・人権教育・授業改善を充実させ、①学力の向上、②不登校の解消、③いじめの防止を改善方針の軸として取り組んでいく必要がある。

また、一人一台タブレットの活用などICT機器の活用を様々な教育活動に積極的に取り入れることが必要である。

## 自己評価書

四日市市立 内部中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	生徒にとって、わかる授業をめざした授業改善を進めます	3
主な方策 成果と課題	<p>○基礎基本の定着とわかる授業を目指した授業改善を進めます。</p> <p>①タブレットやプロジェクタ等ICTを活用した授業の実施 ②少人数授業の効果的な活用と授業に遅れがちな生徒の支援 ③全国学力学習状況調査やみえスタディの分析と活用 ④放課後、長期休業中を活用した補充学習 等</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの利活用促進を目的に、授業で活用できる機器使用の講習やGoogleフォームの研修等を進めました。</li> <li>・基礎基本の定着や課題解決の場として、学力補充の機会を設定し、たくさんの生徒を指導することができました。</li> <li>・生徒が主体的に学びあう授業をめざし、支援の視点での授業改革や問題解決能力の向上に向けて、授業改善をさらに進めています。</li> </ul> <p>★学校自己評価において 「学校は、生徒に授業をていねいに分かりやすく教えている。」 → 肯定的な回答 生徒94% 保護者90%</p>	
重点目標2	ひとりひとりを認め、生徒とともに歩む教職員集団を目指します	3
主な方策 成果と課題	<p>○共に生きる力を高める仲間づくりを推進します。</p> <p>①コアタイムなどの教育相談、スクールカウンセラーによるカウンセリングの充実 ②Q-U調査を活用した学級づくり ③不登校等個別の支援の継続</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイリーライフ（生活ノート）やコアラ週間（教育相談）などで一人ひとりの生徒の声をしっかりと受け止め、様々な場面で生徒同士や生徒と教師のよい関係づくりに取り組むことができました。今後も継続して対応していきます。</li> <li>・不登校については、SC・SSW、関係機関等と連携して、個別にきめ細かく支援することができました。いかに登校につなげていくかが課題です。</li> </ul> <p>★学校自己評価において 「学校は、生徒一人ひとりが、楽しい学校生活を送れるように努めている。」 → 肯定的な回答 生徒94% 保護者92%</p>	
重点目標3	地域、保護者との協働、校区の学びの一体化を進めます	3
主な方策 成果と課題	<p>○学校からの情報を発信するとともに地域とともにある学校を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便りやHP、すぐメールやYouTube配信による情報発信等</li> <li>・生徒の地域行事への参加体制の構築と参加方法の工夫等</li> </ul> <p>○校区の学びの一体化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り入れ授業、人権フォーラム、三校二園合同研修会の実施等</li> </ul> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の学校の様子をHPやすぐメールにより配信、また定期的な学校便りを発信し、本校の目指す教育について多くの方に理解していただいています。また、体育祭の一部や文化祭をYouTubeで配信しました。</li> <li>・地域行事の中止が相次ぐ中、「あったか訪問」でプレゼント製作を行い、地域の活性化につなげることができました。今後は行事への安全な参加が課題です。</li> <li>・小学校への乗り入れ授業として、小学校へ英語の教職員が授業を実施しました。また、各校をリモートでつなぎ、人権フォーラムを行いました。</li> </ul> <p>★学校自己評価 「学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。」 → 肯定的な回答 生徒96% 保護者94%</p>	

重点目標 4	キャリア教育を推進します	3
主な方策 成果と課題	<p>○キャリア教育の推進に努めます。</p> <p>①志講演による長期的な人生設計についての学習の実施 ②職業観・勤労観を学ぶ「職業講話」の実施 ③中学校3年時の進路選択の支援 ※「進路学習」「学力補充」等</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「何のために学ぶのか」を考えられるようになり、近い将来（高校受検）だけでなく、その先を見据えた進路意識を持たせることができました。</li> <li>・進路の実現に向かって、今できることを意識し取り組んでいくために、学んだことと日常生活とのつながりを見出す指導を今後も継続していきます。</li> </ul> <p>★学校自己評価において 「学校では、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや自らの生き方を学習している。」→ 肯定的な回答 生徒92% 保護者91%</p>	

## 2 改善方針

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒にとって、わかる授業をめざした授業改善を進めます ギガスクール構想により、ひとりひとりにタブレットが配布されました。個別最適な学習に取り組むために、機器の扱いやソフトの使用法等の研修を継続していきます。さらに支援の視点に立った課題の提示の仕方、学習形態、授業形態、教具等を工夫し、「主体的な学び」を意識した授業改善に取り組んでいきます。</li> <li>2 ひとりひとりを認め、生徒とともに歩む教職員集団を目指します 落ち着いた中で意欲的に取り組む生徒が多い中で、学力不振や自己肯定感が低いことなどが原因で不登校に陥る生徒がいます。コアタイムなどの教育相談の体制をさらに充実するとともに、教職員以外の職員や関係機関と積極的に連携し、チームで取り組んでいきます。</li> <li>3 地域、保護者との協働、校区の学びの一体化を進めます コミュニティスクールの活動として、委員の方から地域の交通安全等の観点から様々な意見を頂戴し、改善してきました。地域・保護者と一体となった取組としては、通学路点検作業や通学路検討会議などを行いました。今後は、地域活動の参加として、あったか訪問などの地域行事に中学生が活動する機会を徐々に増やしていき、地域との協働作業を進めていきます。 また、学校の様子をHP通信等で積極的に発信し、学校の活動を理解していただき、支援していただくように取り組んでいきます。 学びの一体化については、担当教職員を中心にして、乗り入れ授業や合同研修会を実施し、中学校へのスムーズな接続を実現していきます。</li> <li>4 キャリア教育を推進します 本校は例年、キャリア教育に関する特色のある取組（志講演、高校体験授業等）を行っており、本校の行事の一つとして定着しています。今後も生徒たちのキャリアの発達を促す視点でカリキュラム・マネジメントを行い、生徒の発達段階に応じたキャリア教育をすすめ、「将来のための今を考え、今を大切にす生徒」を育成する体制をより整備していきます。</li> </ol>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 楠中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	『あたたかさ』 道徳・人権教育、教育相談、生徒会活動等の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>■今年度は、北勢地区人権・同和教育研究大会もあり、人権学習の取組が充実していた。昨年度から仲間づくりや人権学習の研修等年間計画に基づいた学習内容を実施し、各学年チームで子どもの現状から課題に迫る授業づくりができたと考える。子ども主体の授業展開を考える機会を重ねることができたのは、他領域や教科学習の授業づくりの参考にもなり大きな成果と言える。また、道徳についても子ども主体の授業づくりや振り返り方法、評価の仕方等、定着してきた。</p> <p>■コロナの影響による休業や行事中止もあってか不登校や不登校ぎみの生徒は増加傾向にあった。教育相談の重要性が高まる中、SCやSSWの支援もあり各関係機関との連携ができ、一人を多くの職員で見守る体制ができている。今年度後半、不登校生徒の中には、別室登校を始めたり、教室に入る日数を増やしたり、リモートによる授業参加ができたりする等変容のみられる生徒が増えてきた。また、他の生徒も日々の「やりとり帳」を利用したり、あたたかい言葉かけ等、日頃からの関係づくりもおこなっている。今後もさらなる子ども理解につとめ子どもたちと向き合っていきたい。</p> <p>■生徒会の活動については、コロナ対策による行事の中止や縮小によって子どもたちの主体的な活躍の場が少なくなっている。一方、保健指導に関する動画作成を委員会活動で行ったり、生徒による地域ボランティア活動への自主的参加が増加したりする等活発な取組も見られたのは成果である。</p>	
重点目標 2	『たくましさ』 主体的な活動、健康教育、安全教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■コロナ対策として、職員や生徒一人ひとりの健康管理のため、手洗い・うがい・室内換気・密を避ける取り組み等を徹底した。集会等の密を避け、放送や映像を活用した取組や保健委員会の生徒主体のコロナ対策に関わる取り組みも実施した。</p> <p>■例年通り、各学級で学習時期も考えながら生徒同士が行う「ミニ健康教室」を実施した。また、学校保健委員会をオンライン開催し、学校医、学校歯科医、学校薬剤師からコメントや資料をもらい、養護教諭が保健だよりに掲載、配付し全校生徒向けの保健指導も実施した。加えて保健室前の掲示物を利用し、その時期にあった子どもたちの興味関心を喚起するテーマで、体や心の健康に関する学びが生まれる掲示物が提供でき、意識啓発を行った。今後も個別の生活改善につなげていきたい。</p> <p>■今年度は、昨年度に引き続き、地区別集会で確認した危険箇所や災害時にどう身を守るかについての話し合い結果と各地区の保護者から提供された情報により町内の危険場所のマップの追加修正を行い昇降口付近に掲示している。また、昨年度より今年度半ばまで交通安全運動推進モデル校として、登校の見守り活動や交通安全教室等、安全意識高揚の取組を行った。今後もこれらの取組の他、延期や中止となっている避難訓練の充実をはかり、生徒の防災意識・危機管理能力を高めていきたい。</p>	

重点目標 3	『たしかさ』 学力の向上、キャリア教育、特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■「授業の四か条」「基礎学習の流れ」「家庭学習の手引き」の内容検討、確認を行い取り組みを進め、授業・補充学習・家庭学習等の子どもの主体的な取組につなげた。さらに、生活リズムチェックシートを活用し、日々の生活面等の検証や改善に努め、学力向上の基盤である子ども理解に役立てた。</p> <p>■コロナ禍で制約の多い中、新学習指導要領及び新たな学習評価への対応を踏まえつつ、まずは自分の思いを出すことができ、意欲が持続する授業づくりに努めた。人権学習の授業づくりで培った意見を伝え合う活動は定着しつつあり、教科学習への広がり期待したい。ただ、それを話し合いや学び合いまで高めるためには、各教科での工夫を評価の在り方とも関連付けて取り組む努力を続けていかなくてはならない。</p>	
主な方策 成果と課題	<p>■コロナ対応によって職業体験やようこそ先輩（卒業生による進路ガイド）が中止となったが、3年生の「マナー講座」や2年生での「職業人に聞く（地域で活躍する人から仕事の話を知ろう）」は実施できた。社会や地域に出た時に身に付けるべき所作や姿勢、意識について学ぶ機会を得ることは進路学習に大変効果的であった。</p> <p>■生徒指導委員会を週1回（その内月1回は不登校対策委員会）行い、生徒の情報交換及び課題解決に向けての対策等を協議している。特に複雑で多様な課題を持つ不登校生徒に対する指導・支援については、SCやSSW、市教委、関係機関等と連携を図り、生活状況やその背景等、本人（保護者）の願いや思いを受け止めながら、チームとして取り組んでいる。今後も進路保障を意識しながら継続的に取り組んでいきたい。</p> <p>■特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援委員会をはじめ、諸会議で現状と対策を話し合い、一人ひとりの生徒の課題を共有し、その生徒や保護者のニーズにあった教育支援を組織的に行なっている。これらの取組により教職員と生徒や保護者の信頼関係が深まってきている。また、本人や保護者の困り感を理解し、個々の障壁を取り除くための配慮とはいかにあるべきか、学校全体で考え取り組みを今後も進めていきたい。</p>	
重点目標 4	『地域とともに作る学校』 地域人材の活用促進、地域での学習活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■コミュニテースクール運営協議会の開催回数がコロナ対応により減少したことは残念であるが、行事への参加等において学校の教育活動や運営方針の状況について客観的な評価や様々な助言をいただいている。今年度は、人権学習の一環として地域の人権教育推進協議会の方々とも意見交流をしており、子どもたちの学習意欲を向上させることにつながった。また、長期休業中を利用した地域の人材による補充学習教室も3年目に入り、人数は少ないものの定着してきており、地域と連携してのキャリア学習も実を結んできている。</p> <p>■もともと地域の行事に対する子どもたちの参加意欲が高い地域であり、ボランティアとしての参加も多く、地域の方々の期待も大きい。コロナ対策による地域行事の縮小、中止が相次いでいる中でも、吉崎海岸の環境整美活動の講演会を実施し、ボランティアで個人的に参加している生徒も増加傾向にある。今後は、コロナ禍で中止となっている地域の高齢者との交流学習等学ぶ機会を増やしていきたい。</p>	

## 2 改善方針

■日頃から教職員は子どもたちの様子をきめ細やかに観察し、支援、指導にあたっている。また、コロナ対応におけるオンライン学習等予期せぬ事態にも様々な工夫で対処し子どもたちと向き合えた。今後も、学年間の意見交流や困り感の共有をより充実させていくことによって、組織としての支援・指導を行えるようにしたい。また、多様化する課題にチームとして取り組み、どのような指導も単発で終わることなく子どもたちの成長につながるように教育活動を仕組んでいきたい。

■主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、今年度は、学年で共通して取り組む「考える道徳」や「人権学習（総合的な学習の時間）」にける授業づくりが充実していた。その成果の1つである「学び合い」や「考え合う」授業について成果を整理し、教科授業においても具体的な目標、授業での工夫を考え、全体で情報共有を行うことが必要になってくる。コロナ対策も踏まえながら教職員集団が同じ方向を向いて、学び合う機会を増やし、その成果を子どもたちに還元したい。

■多忙化に対する取り組みは、職員の意識向上がなくては成立しない。すべての教育活動に関連してくる取組であるとの認識のもと、自らの働き方を見直す機会を今後もつくっていく。また、コロナ対応による学校行事の見直しも、今後をしっかりと見据えて子ども目線で考えていきたい。

■子どもの変容や気になる言動の情報早期共有、複数対応を大切にして、あたたかい評価メッセージを発信していきたい。今後も生徒理解を基盤として、生徒の主体的な教育活動を促す研修や実践を深めていく必要がある。